週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1947
昭和22年

8|5
平成9年8月5日発行
(毎週1回発行)第1巻第24号
¥560
講談社

"フジヤマのトビウオ"発進!

人気ラジオ番組「日曜娯楽版」の諷刺度
日本国憲法、お祭り気分の中で施行!
新宿・帝都座"額縁ショー"の人気と衝撃

▲昭和23年8月6日、東京・神宮プールでの日本選手権1500メートル自由形決勝で18分37秒0の世界記録樹立後の古橋選手。「世界記録を破る自信はあったよ」と語った。 朝日新聞社

◎表紙　古橋広之進は戦後日本が生んだ偉大なスポーツマンの一人である。写真は、昭和24年8月の全米水上大会で力泳する古橋選手。 共同通信社

「でかした、まったく偉い、文句なし……」〝フジヤマのトビウオ〟古橋広之進 33回の世界新樹立へスタート!

▼昭和22年9月7日、伊東で行われた日本水泳連盟の合宿で練習する古橋選手（手前）と橋爪四郎選手。二人は同じ日大の学生で生涯のよきライバルだった。 毎日新聞社

「フジヤマのトビウオ」、古橋広之進はこの年、初めての世界新記録を樹立した。だが、日本水泳連盟が国際水泳連盟から除名されていたため、「幻の世界新」に終わった。しかし、その後も快進撃を続け、あわせて三三回の世界新記録を作った古橋の活躍は、敗戦にうちひしがれた日本国民を鼓舞し続けたのだった。

初の「世界新記録」焼け跡時代の曙光

昭和二二年八月九日、全日本選手権水上競技大会第三日目が、午後五時二〇分から東京・神宮プールで行われた。神宮プールは占領軍に接収されており、日本人はオフリミットだったが、この大会のため、特に使用が許可された。この日、気温二九・五度、水温二四・五度、コンディションは良好である。

前日の八日、日本大学水泳部の古橋広之進（一八）が四〇〇㍍自由形準決勝で四分三八秒八という長水路での世界最高記録を出していた。この〝超人〟古橋の泳ぎを見ようと、開場前から観衆が列を作り、一万五〇〇〇人を収容するスタンドはぎっしり埋まっていた。その中には、前日にラジオのニュースで息子の快記録を知り、会場へ駆けつけた古橋の父、宇八氏の姿もあった。

四〇〇㍍自由形決勝で、選手がスタート台に立つと、期せずして「古橋たのむぞ」の声援が上がる。レースは古橋がスタートからピッチをあげる。みるみる二位との差が開く。一〇〇〇㍍のラップは一分三秒二、前日より一秒六早いとのアナ

ウンスに大きな歓声が上がる。ピッチは依然衰えない。二〇〇㍍、二分一四秒二のラップに観衆は「世界記録は間違いない」と固唾を呑む。三〇〇㍍のラップは三分二六秒零、最後の三五〇㍍のターンを終える。二位ははるか後方である。そしてゴール。記録は前日を上回る四分三八秒四。

世界記録はアメリカのスミスが持つ四分三八秒五（短水路）。古橋の記録は堂堂の世界新記録である。だが日本は国際水泳連盟から除名されていた。古橋の記録は、「幻の世界新」に終わったが、この記録は、日本国民に勇気を与え、翌一〇日の「朝日新聞」は「でかした、まったく偉い、文句なし……」「平和日本が終戦後初めて世界に送る朗報である」と伝えた。

だが、戦争の爪痕がまだ剝き出しのまま残っていた時代、古橋らにとって、それは過酷なレースだった。食糧がないのである。当時の古橋の優勝インタビューには、何度となく食べ物の話が出てくる。ある時の第一声はレースについてではなく、「腹が減って、腹が減って」だった。

実際、日大水泳部の選手の食事について、古橋自身がこう回想している。「主食はスイトン、豆カス、トウモロコシなどで、米は一升をおかゆにして、三〇人で食べるのだからひどかった」（古橋著『熱き水しぶきに』）

本来なら水泳どころではなかったのかもしれない。当時の選手たちは、練習だけでなく、自分の食べるものを自分で調達しなければならなかったのだ。古橋自身も闇の買い出しに行き、おそろしい目にあっている。「東北に買い出しに行き、（中略）帰りの車中で、進駐軍の警邏隊に見つかってしまった。フルスピードで隣の車両に逃げ出したが、なんと威嚇射撃を食って、一度に肝っ玉がちぢみあがった」（前掲書）

▲昭和22年9月10日、東京・碑文谷の日大プールの隣にある自家農園から収穫物を運ぶ日大の選手たち。先頭が古橋選手。　毎日新聞社

オリンピックに不参加 記録は四〇秒上回る

翌二三年の七月二九日から八月一四日まで、ロンドンで戦後初のオリンピックが開催された。日本水上陣は、大会参加に意欲を燃やしたが、イギリスは昭和一六年一二月一〇日マレー沖で日本軍に撃沈された自国の誇る戦艦を引き合いに出し、「我々は『プリンス・オブ・ウェールズ』のことを忘れられない」と日本の参加を拒絶した。これに対し水連会長・田畑政治（四八）は、オリンピックにぶつけて日本選手権を開催することを決意して、要旨次のような檄を飛ばした。

「オリンピックは世界選手権を兼ねている。もし諸君の記録がロンドン大会を上回れば、世界一はオリンピックの勝者でなく、日本選手権の勝者ということになる」

こうしてオリンピックと同時期の八月五日から開かれた日本選手権二日目の六日、一五〇〇㍍自由形決勝で古橋は、同年齢で生涯のライバル橋爪四郎とともに出場した。抜きつ抜かれつの大接戦のすえ、一四五〇㍍で橋爪がトップに立ったが、古橋が猛烈なラストスパートを見せ頭ひとつの差で優勝した。古橋が一八分三七秒零、橋爪は零秒八およばなかった。しかし二人とも従来の世界記録より二〇秒以上早い驚異的な新記録だった。ロンドン・オリンピックのゴールドメダリスト、アメリカのマクレーンに四〇秒以上の差をつけたのだった。

さらに翌二四年、日本チームは、かつての敵地、ロサンゼルスで行われた全米男子屋外水上選手権大会に招待され、五つの世界新記録を打ち立て、日米だけでなく全世界を仰天させるのである。

古橋の力泳に日本の国民は心の底から快哉を叫んでいた。「フジヤマのトビウオ」は、合計三三回の世界新記録を樹立、敗戦後の日本人を鼓舞し続けたのである。

▲昭和24年8月18日、新橋駅前。全米水上選手権大会での古橋・橋爪の活躍を伝える実況放送車を囲む群衆。

「でかした、まったく偉い、文句なし……」

“フジヤマのトビウオ”古橋広之進 33回の世界新樹立へスタート！

日米を熱狂させた“フジヤマのトビウオ”

WWP

▲全米水上選手権大会での古橋（左）と橋爪。

昭和24年、古橋らは、かつての敵地、ロサンゼルスで行われた全米男子屋外水上選手権大会に招待された。

「まだ国交も回復せず、外務省から生命の保障はできないと言われました」（橋爪氏）

ロスの対日感情は非常に悪く、「ジャップ」はホテルへの宿泊もできず、現地紙の論調もまた、厳しかった。

「ジャップのプールはアメリカよりも短い」

「時計がゆっくり動いているに違いない」

「ターンを1回はしょっているんだろう」

大会初日の8月16日、まず橋爪が1500㍍予選A組に出場し、いきなり世界新記録を出す。目の前で日本選手の実力を見せつけられたアメリカの審判は、驚きのあまりラップタイムの放送を忘れ、1300㍍で後100㍍のピストルを撃つほどの動転ぶり。だが、驚くのはまだ早かった。「さあ、では俺もやるかなあ」とつぶやいてスタート台に向かった古橋が、予選B組で、橋爪の記録をさらに16秒も短縮したのである。記録は18分19秒0。2位との差を180㍍もつけた圧勝だった。

翌日から現地紙の論調ががらっと変わった。「ジャップ」が「ジャパニーズ」に変わり、古橋は「フジヤマのトビウオ」と形容された。ロス市長が選手団のもとに駆けつける。彼は古橋らに「諸君を市民が見たがっている。ついてはメインストリートを通行止めにするからパレードを頼む。それも日の丸を掲げてやってくれ」。

「生命の保障はできない」から、日の丸を掲げたパレードを、に変わったのだ。橋爪氏は「我々は大変な外交官だったわけですね」と振り返る。日本国内でも連日深夜のラジオ放送に国民は耳をそばだてた。

「みんな夜中に起きていたので、犯罪が激減したそうです」（橋爪氏）

連日号外が発行され、1日に何度も臨時ニュースが流れた。フジヤマのトビウオは、敗戦後の日本にエールを送っただけでなく、このうえない民間外交を展開したのである。

占領時代を駆け抜けた人気ラジオ番組
三木鶏郎と「日曜娯楽版」のユーモア、諷刺、反骨……

●「日曜娯楽版」のスタッフと出演者たち。先頭から順に、千葉信男、三木のり平、河井坊茶、旭輝子、小野田勇、一人おいて最高尾が三木鶏郎。 林忠彦

三木鶏郎を中心に、昭和二二年に始まったNHKの人気ラジオ番組「日曜娯楽版」は、戦後の明るく開放的な気分を象徴していた。政治や社会に対して、鋭く、毒をもはらんだこの番組は、朝鮮戦争をまたぎ、七年の長寿番組となるが、昭和二九年、政治的圧力で打ち切られた。

◀三木鶏郎夫妻。三木は昭和21年1月、「歌の新聞」の放送を始める。これが翌年「日曜娯楽版」になる。

吉田潤

諷刺コントと音楽で「冗談音楽」が人気に

チャリン、チャリン。「にちようごらくばーん、にちようごらくばーん」。

鈴の音に続く三木のり平（二二）の呼び声、軽やかなテーマソング——。

♪さあ皆さんおなじみの　日曜娯楽版／父さん　兄さん　坊ちゃん　嬢ちゃん　お婆ちゃま～

昭和二二年一〇月五日、後に「世界に誇れる番組」と言われるラジオ番組「日曜娯楽版」が始まった。午後七時半からの三〇分番組。中でも後半の「冗談音楽」の諷刺コントと軽妙な音楽は、閉塞した生活に疲れた聴取者の拍手喝采をあびた。

♪モシモシアノネ　アノネ　アノネ　これから始まる、冗談音楽

このコーナーの台本・作曲を手がけたのは三木鶏郎（本名・繁田裕司）。NHKの名プロデューサー・丸山鉄雄（三七）がみいだした三三歳の作曲家だった。

演奏はジョージ川口（二〇）ら三木鶏郎楽団、出演は三木のり平、鶏郎の弟・鮎郎（二三）、丹下キヨ子（二七）、秋元喜雄（後の河井坊茶・二七）ら「トリローグループ」だった。

♪オヤまた停電　マックラケ／電気がなければ　仕方がない／これじゃなんにも　できません／ダケド、停電大好きだ

当時、日常茶飯事だった停電を取り上げて——。

秋元「みんなが困っているのに、何がそんなに嬉しいんだい」

丹下「だって、ちょうど彼氏と会っていた時なんですもの……」

GHQ（連合国総司令部）の民主化推進方針で労働組合運動は激化していた。

♪またも出ました　泥棒が／ナイフ、ピストル、出刃包丁／強盗、窃盗、かっぱらい／空き巣狙いに、人殺し

秋元「親分、ここにもうちの先客がある」

のり平「ずいぶん、泥棒がふえやがったな、コチトラ失業だ」

秋元「親分、組合作ろうぜ」

番組の人気が高まる中、丸山は劇作家・飯沢匡（三八）、慶応大学講師・池田弥三郎（三二）などを台本の作家として投入する。出演者にも榎本健一（四二）、中村メイコ（一三）が顔を出す。また三木もキノトール（二五）、神吉拓郎（一九）を加えて台本制作部門・三木鶏郎文芸部を設立。「日曜娯楽版」は、さらに舌鋒鋭くなる。一方で本業の作曲に専念した三木鶏郎は「僕は特急の機関士で」「田舎のバス」などのヒット曲を番組から生み出した。

三木鶏郎文芸部は反骨精神の梁山泊

昭和二三年に政財界を巻きこむ「昭和電工疑獄」が発覚し、首相退陣直後の芦田均が逮捕されると、たちまち槍玉に。

A「大臣になって最初の客は」

B「会社の贈賄係」

A「第二の客は」

B「小菅の差し入れ屋」

しかし昭和二七年、占領が終わり、公職追放が解除されると、政財界にとって「日曜娯楽版」は最も煙たい番組にほかならなかった。二七年六月一五日に番組名が「ユーモア劇場」に変わり、内容も政治色・社会性を薄めたものにされ始める。二九年四月二〇日、自由党幹事長・佐藤栄作（後の首相）に対する逮捕許諾請求を、法務大臣・犬養健が指揮権を発動し握りつぶすや、「冗談音楽」には一般投稿者の抗議のコントが殺到する

A「飼い犬さんがやめたねぇ」

B「誰だって」

A「法務大臣だよ」
B「馬鹿！　名前がさかさまだ」

六月一三日、NHKは「ユーモアが高尚ではない」として番組を打ち切った。三木自身は「佐藤栄作が当時のNHK会長に直接電話をした」と書き残している。

自身も文芸部に籍をおいていたメディア評論家の石井清司は、野坂昭如、いずみたく、五木寛之らを輩出した文芸部を「梁山泊だった」と評する。中学時代から常連投稿家で文芸部の一員でもあった永六輔はこう語る。

「鶏郎さんのまわりには自由な風が吹いていた。それを皮膚感覚で感じて、いろいろな才能の持ち主、一筋縄でいかない人間が集まってきたんでしょう。それをダメと言わず、若い人でも実力があれば責任を渡してしまう鶏郎さんはみごとでした」

占領時代を駆け抜けた「日曜娯楽版」は「民主主義と自由主義という価値観を具体化して見せ、庶民の生活に風穴を空けた」（石井）ものだった。

▲楽屋に集まった「トリローグループ」の面々。前列左から落語家・三遊亭歌笑、女優・丹下キヨ子、三木鶏郎。後列左から脚本家・小野田勇、俳優・三木のり平、コメディアン・河井坊茶。　吉田潤

▲「日曜娯楽版」の録音風景。右から千葉信男、丹下キヨ子。二人は初回からのメンバーで、中央の三木のり平も常連の一人だった。　NHKサービスセンター提供

女たちの肖像

少女の目線で描いた日常『ノンちゃん雲に乗る』で石井桃子、作家デビュー

稲葉真弓

日本の児童文学の傑作であり、現在も読み継がれている石井桃子の『ノンちゃん雲に乗る』が大地書房から出版されたのはこの年の二月、石井は三九歳だった。戦争が終わり、世は児童文学書ブーム。そんな中で出版された『ノンちゃん雲に乗る』は、どこにでもいそうな少女の目線で描かれた生き生きとした日常が子どもたちの人気を博し、昭和二五年頃には幅広い読者層を得るようになった。二六年には第一回芸術選奨文部大臣賞を受賞し、児童文学の世界に金字塔を築くことになった。

石井桃子はこの作品を、戦時中の八年間、ずっと温めていたという。もともと彼女は、児童書の古典的名作であるA・ミルンの『クマのプーさん』を日本に紹介した翻訳者として知られていたが、『ノンちゃん雲に乗る』で童話作家としてもデビューを飾ったのだった。

明治四〇年、埼玉県浦和に生まれた彼女は、昭和三年日本女子大学英文科を卒業後、文藝春秋社に入社、この編集者時代、後に政治家になった作家の犬養健宅で原書の『クマのプーさん』に出会い、児童文学に目覚めたという。「ノンちゃん雲に乗る」は昭和一八年頃にはすでに完成していたが、戦時下での自由主義的な作品の出版はむずかしく、四年余を経て出版されたのだった。

彼女はまた、ナチュラリストとしてもユニークな足跡を残している。戦時中知り合った女子挺身隊の女教師・狩野ときわと二人で「農業さえしていれば食べていける」と宮城県栗原郡の開拓農業に従事、乳牛や緬羊を育て酪農組合を作ったりした。『ノンちゃん雲に乗る』の初版印税三万円は、牛を買うために大いに役立ったという。

昭和二五年には岩波書店の「岩波少年文庫」「岩波こどもの本」の主任嘱託に迎えられ、多くの児童書の出版にかかわった。この業績が買われて二九年菊池寛賞を受賞。三三年にはロックフェラー財団の招きで渡米したが、機能的な図書館の活動に刺激され、帰国後は「日本の子どもにも歯ごたえのある本を読ませたい」と東京・荻窪の自宅に「かつら文庫」を開設。近所の子どもたちに読書指導をするなど児童文学の普及に貢献したほか、八七歳の誕生日を迎えた平成六年三月には荻窪を舞台にした小説『幻の朱い実』を出版し文壇の話題となった。

▲戦後の児童文学に大きな影響を与えた。

勝者・敗者

頭の差で栄冠を獲得！ダービー馬戦後第一号マツミドリのゴール前

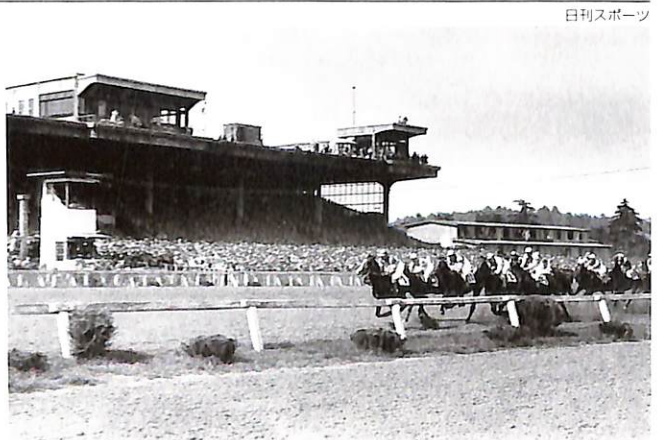
阿部珠樹

戦後第一回（通算第一四回）の日本ダービーは、六月八日、東京競馬場に四万二〇〇〇のファンを集めて行われた。出走馬は二四頭。一番人気は、皐月賞には欠場したものの、直前のステップレースを圧勝したアヤニシキ。二番人気は牝馬ながら、皐月賞で牡馬を向こうにまわし二着に六馬身の差をつける快勝劇を演じたトキツカゼだった。

レースは予定より八分遅れの三時八分にスタート。まずイーストパレードが先手を取る。牝馬のトキツカゼはすばやく二番手をキープ、アヤニシキ以下の馬は控えて様子を見る。やや速いペースで馬群は向こう正面から第三コーナーへ。三コーナーをまわると、イーストパレードにマツミドリが並びかけ、デッドヒートを演じる。何度かぶつかるシーンがあってイーストパレードは失速、トキツカゼが先頭で四コーナーをまわる。皐月賞に続いて牝馬がダービーも制するのか。

そう見えた時、トキツカゼに襲いかかる馬がいた。皐月賞で二着に甘んじた牡馬のマツミドリである。皐月賞では突き放されたが、この日のマツミドリは違った。田中康三騎手のムチにこたえ、一歩も譲らない。二頭はまるで重なり合うようにゴールまで激しい競り合いを演じたが、最後は牡の力が勝った。マツミドリが頭の差でトキツカゼをおさえて、戦後のダービー馬第一号の栄誉を手に入れたのである。

敗れたトキツカゼの大久保房松調教師は「アイツの子どもに負けたんだから、本望」と、悔しさを噛み殺してうめいた。「アイツ」とは大久保調教師が騎手時代に手綱を取り、ダービーに勝ったカブトヤマのこと。マツミドリはそのカブトヤマの子どもだったのだ。

「ダービー馬はダービー馬から」の格言を、日本で初めて実現したこのレース。しかし観衆は敗れたとはいえ、牡馬を相手に一歩も引かぬ戦いぶりを見せた牝馬トキツカゼの力強さに戦後の女性のたくましさを重ね合わせ、大きな拍手を惜しまなかった。

日刊スポーツ
▲優勝した3番人気のマツミドリは、賞金17万円余りを獲得した。

共同通信社

▲マッカーサー、2・1ゼネスト中止命令(1月31日)賃上げを含む統一要求を掲げた全官公庁共闘委の無期限ゼネスト宣言に対し、GHQはこの日、元帥名で強圧的な禁止令を発し、伊井弥四郎議長は全組合員にラジオで涙の中止呼びかけを行った。

朝日新聞社

▶初荷、期待の半分(1月3日)この日、東京・築地市場に集められた野菜類は約450トン。都内に全部配給されると一人当たり約75グラムで、この状況は3月まで続くと考えられた。食糧事情は依然として厳しかった。

毎日新聞社

▶古川ロッパ一座、正月興行(1月2日)東京の有楽座で英語も飛び出す「カムカムロッパ」を熱演。写真左がロッパ。昭和8年、徳川夢声らと「笑いの王国」を結成、エノケン(榎本健一)と並ぶ人気喜劇役者だった。

▶新興宗教「璽宇教」教祖・璽光尊(長岡良子)逮捕(1月21日)米の隠匿で食管法違反に問われた。幹部の元横綱双葉山、囲碁名人の呉清源らが、金沢本部に踏みこんだ警官隊相手に大暴れ。写真は警察に出頭する信者たち。左から二人目が双葉山。

共同通信社

▲美人コンテスト「解禁」(1月17日)「ミス銀座」をめざして56人が応募。作家・久米正雄、画家・岩田専太郎、伊東深水が松坂屋で審査。銀座のダンスホールにつとめる今泉瑠美子さん(19)が栄冠を得た。

共同通信社

毎日新聞社

▲新円、大量発行(1月)前年、政府はインフレ抑制策として新円を発行、金額を限定して旧円と交換する措置をとった。しかし一時激減した通貨の発行量は再び増加、大蔵省印刷局滝野川工場は大忙しとなった。

昭和22年1月

1(水)●長谷川町子『サザエさん』第一巻刊行。
●新聞の見出しが左横書きになる。
●吉田首相、ラジオで労働運動の左派指導部を「不逞の輩」と非難し問題化。
2(木)●沼津御用邸に空き巣。女官の衣類盗難と判明。
3(金)●東京・築地市場の初荷。野菜は期待量の半分。
4(土)●箱根駅伝が復活(5日、明大が総合優勝)。
●国鉄、石炭不足で急行を全廃(〜4月22日)。
5(日)●東京裁判被告の永野修身、死去。享年六六。
6(月)●東京・上野駅地下道で凍死者続出のため、都が四〇〇坪の救済テント村建設に着手。
7(火)●GHQ、中国からの一五〇万人の引揚げ計画を完了と発表。
8(水)●「町から村から工場から」など、総同盟などが募集した労働歌三曲が決定。
9(木)●警視庁、雑誌「猟奇」を猥褻として押収。
10(金)●私鉄総連結成。五六組合、一〇万人を組織。
11(土)●警視庁、車載放水銃と水タンクを備えた新型消防車三台を完成し、公開。
12(日)●全国鉱山労組会議、鉱産物政府買い上げ価格の引き上げなどを決議。
13(月)●全国労組懇、社党中心の民主政権樹立を決議。
14(火)●釧路港に東京向けの木炭一五〇〇トンが船舶不足で山積みのまま、と新聞に。
15(水)●東京の帝都座で、初の額縁ヌードショー開演。
16(木)●GHQ、占領軍将兵の日本人家庭訪問時限を午後一一時までと指令。
17(金)●自由・進歩・社会三党首会談が決裂、政府の連立工作失敗に終わる。
18(土)●全官公庁共闘委、二月一日にゼネストと宣言。
19(日)●小樽市の全日本学生スキー選手権で明大優勝。
20(月)●主要都市の国民学校で週二回の学校給食開始。
21(火)●新興宗教・璽宇教を食糧隠匿容疑で摘発。
22(水)●闇取締りで東海道線に武装警官が初警乗。
23(木)●璽宇教教祖・長岡良子、精神病との診断で釈放。
24(金)●東京裁判の検事側立証が終了する。
25(土)●米マフィアのアル・カポネ病死。享年四八。
26(日)●日本優生結婚協会が、東京・上野で初の連合見合い開催。女性が男性の二・五倍。
27(月)●政府、新円の支払い枠を月七〇〇円に増額。
28(火)●内閣打倒・危機突破国民大会に三〇万人参加。
29(水)●京浜線でジュラルミン製電車の試運転。
30(木)●東京・上野の浮浪者二〇人、釧路の炭鉱に就職。
31(金)●マ元帥の命令により二・一ゼネスト中止。

ニュース・ファイル 1947

フォト+日録で再現する365日

都市では圧倒的なモノ不足、地方では占領軍まで出動しての有無を言わせぬモノ集め。しかし、闇市の品ぞろえは次第に豊かになり、復興のシステムや新しい法制度も徐々に姿を現し始めた。娯楽や笑いも息を吹きかえし、「戦後日本」が本格的にスタートした。

◀東京に輪タク出動(2月10日)闇市の「顔役」関東尾津組が営業。GHQ(連合国総司令部)の航空機製造禁止令で放出されたジュラルミンで車体を作り自転車で引いた。二人乗り2キロ10円。後に大阪・名古屋にも出現。
共同通信社

▶**ダンス流行（2月）** 前年からダンスホールが復活、東京では授業として採用する女学校が出るほど浸透。6月には新橋のダンスホールでタンゴ、ワルツで「早慶戦」が行われた。

共同通信社

◀**南氷洋から蛋白源（2月11日）** 戦後初の南氷洋捕鯨船団第一船が東京・築地に約340トンの鯨肉を積んで帰還。都民の苦しい食卓をうるおした。写真は南氷洋で鯨を母船に運ぶキャッチャーボート。

共同通信社

▶**親子バス出発（2月15日）** 米軍払い下げのトラックを改造し、エンジンのない古いバスを連結した。東京一荻窪間を運行、昭和24年のトレーラーバス導入で廃止となった。

東京都交通局提供

◀**「ニュー・ルック」発表（2月）** パリでクリスチャン・ディオールが、優雅さ、あでやかさを打ち出したファッションを披露。質素・倹約に耐えてきた女性の心をとらえた。

文化女子大学図書館所蔵

▶**買い出し列車惨事（2月25日）** 埼玉県の国鉄八高線高麗川駅付近で満員のためカーブを曲がりきれず、6両編成中の後部4両が脱線し、崖下に転落。184人が死亡、八百余人が負傷した。

共同通信社

◀**闇屋摘発（2月）** 警視庁は7日、9日と闇物資の取締りを行ったが、飢餓状況におかれる国民にとって米などの闇物資は不可欠だった。写真は静岡県の臨時検事局で取り調べを受ける闇屋の一人。

毎日新聞社

昭和22年2月

1（土）●都内各駅に駅前広場を作る計画が決定。
2（日）●一八歳未満の孤児は全国で一二万三五〇四人と厚生省発表。
3（月）●東京の本郷下宿人組合が賄（まかな）いつき月一九〇円の線で闘争中、業者は四五〇円要求と新聞に。
●警視庁、犯罪事件被疑者の人権を尊重して取り調べるよう各署に通達。
4（火）●七世尾上梅幸（おのえばいこう）が東京劇場で襲名披露公演。
5（水）●文部省、新学制で男女共学は強制せずと言明。
6（木）●労使団体が合同し、経済復興会議結成。
7（金）●警視庁、闇物資取締りのため冷蔵庫摘発隊・倉庫摘発隊を編成。
8（土）●一二坪以上の住宅新築・増改築が禁止される。
9（日）●警視庁、闇タバコの一斉取締りを開始。
10（月）●東京で輪タクが営業開始。二キロまで一〇円。
●数十人の拳銃強盗団が東京・葛飾区の倉庫からトラック一三台分の生ゴムを強奪。
11（火）●ヒッチコック監督「断崖」封切。
●捕鯨船団第一船が三四〇トンの鯨肉を積み帰還。
12（水）●日本ペンクラブ（会長・志賀直哉（なおや））再建。
13（木）●運輸省、連合国払い下げのトラックなど一万七千台余の配分を決定。
14（金）●東京都、条件つきで芋の買い出しを許可。
15（土）●家督相続税が廃止され、贈与税新設。
16（日）●谷崎潤一郎の『卍（まんじ）』が一〇〇円など、紙不足で新刊書が軒並み超高値、と新聞に。
17（月）●憲法普及会、金沢など一八都市で講演会開催。
18（火）●東京・世田谷で女性が野犬に喰い殺される。
19（水）●東京・新橋のマーケットで火災、七〇戸焼失。
20（木）●石井桃子『ノンちゃん雲に乗る』刊行。
●持株会社整理委、財閥解体のため一〇家五六人を財閥家族員として指定、資産管理へ。
●GHQ、輸出品への「Made in Occupied Japan」（占領下の日本製）の記載を指令。
21（金）●関東地区で四日のうち三日の昼間停電実施。
22（土）●「東洋のマタハリ」川島芳子、中国の軍事法廷出廷のため北平（現・北京）から南京へ護送。
23（日）●ダイヤ急騰し一カラット四五万円の高値をつける。
24（月）●東京裁判で弁護団反証に入り冒頭陳述を行う。
25（火）●埼玉県の高麗川（こまがわ）駅付近で満員の買い出し列車が転覆、一八四人死亡、約八〇〇人重軽傷。
26（水）●GHQ、狩猟期間を短縮し、かすみ網を禁止。
27（木）●官公庁労組代表、争議終了を正式に表明。
28（金）●台湾で反国民政府の大暴動発生。

共同通信社

◀**青空職業相談所（3月）** 正月に東京の上野駅地下道で寝ていた11人が凍死。大量失業は深刻で、政府や都は対応に追われた。写真は浅草の街頭に進出した相談所。4月には厚生省が公共職業安定所を設置する。

共同通信社

▲**教科書全面改訂（3月）** 学校教育法が施行され、六・三制が開始される新学期を前に文部省が実施。GHQの意向をふまえ、民主主義的教育理念を根幹とした。写真は新国定教科書。翌年の検定制度開始まで使われた。

◀**千葉県の中山競馬場、4年ぶりにレース開催（3月21日）** 軍用施設から解放され、東京、京都に5ヵ月遅れて開場。1日8レースが行われ、8日間で1億8000万円の売り上げを記録した。

日本中央競馬会提供

▼**初のロードショー劇場スバル座（3月25日）** 東京・有楽町にオープン。ガーシュインの生涯を描く「アメリカ交響楽」を上映し、入場料は25円と高額だったが、10日間分の前売り券が売り切れる人気だった。

スバル座提供

◀**発疹チフス予防注射（3月17日）** 東京都が注射ずみの証明書のない人に都内主要駅23ヵ所で実施。前年、東京都の発疹チフス患者は9864人、シラミなどが媒介する伝染病で、DDTの散布やワクチンの接種を積極的に行っていった。

共同通信社

昭和22年3月

1（土）●NHK「配給だより」放送開始。
●風刺漫画誌「クマンバチ」創刊。
●国鉄、旅客運賃二五パーセント値上げ。東京—大阪間三等が四五円に。私鉄は旅客三・五倍値上げ。
2（日）●全新聞社が教科書用に新聞用紙の供出を決定（9日から週二回タブロイド判になる）。
3（月）●連続暴行殺人の小平事件初公判に傍聴殺到。
4（火）●GHQ、南方軍事裁判で絞首刑三〇人と発表。
5（水）●内相、警察力による主食供出の強制を訓示。
6（木）●東京では米の配給が平均一三日の遅れで、さらに悪化する傾向と新聞に。
7（金）●人事めぐり大臣不信任運動中の逓信（ていしん）省で、工務局の全課長含む職員三〇〇人が辞表提出。
8（土）●東宝第三労組員らが「新東宝」を設立。
9（日）●戦後初の国際婦人デー。各地で集会開催。
10（月）●全国労働組合連絡協議会（四二〇万人）結成。
●第一回東京都復興宝籤（たからくじ）発売。
11（火）●東洋レーヨンが国産ペニシリンの量産開始。
12（水）●米大統領、ソ連封じこめと共産勢力拡大阻止をねらうトルーマン・ドクトリンを発表。
13（木）●少年少女の家出が敗戦直後の二〇倍と新聞に。
14（金）●GHQ、旧日本軍艦の半量を屑鉄（くずてつ）化と発表。
15（土）●東京都の三五区を二二区に統合（8月1日練馬区が分離し二三区に）。
16（日）●給食費一五円が払えず、給食を食べない児童がいると朝日新聞「声」欄に投書。
17（月）●都内二三駅で発疹（ほっしん）チフスの予防注射開始。
18（火）●第一回勤労者駅伝競走開催。日立製作所優勝。
19（水）●国府軍、延安に侵入。人民解放軍は北へ移動。
20（木）●列車持ちこみ荷物の全国一斉取締り開始。千葉県の松戸駅では米五〇俵を押収。
21（金）●千葉県の中山競馬が四年ぶりに復活。
22（土）●日本鳥学会、キジを日本の国鳥に選定。
●米で公務員の忠誠テスト実施（赤狩り開始）。
23（日）●四月の総選挙に占領軍が監視班編成と新聞に。
24（月）●養殖真珠を戦後初めて米に出荷とGHQ発表。
25（火）●東京・有楽町に初のロードショー劇場「スバル座」が開場。「アメリカ交響楽」封切。
26（水）●鉄道弘済会、大阪駅で貸し腰かけの営業開始。
27（木）●中央農地委、府県別の地主保有面積を決定。
28（金）●県別供米は宮城完納、新潟低調などと新聞に。
29（土）●政府、投票棄権防止に職場半休を全国に通達。
30（日）●春の甲子園大会が復活し開幕（徳島商優勝）。
31（月）●第一回農地買収実施。一一万七四二一四ヘクタール。

▲宮城の外濠の釣り解禁(4月)約70年ぶりの措置。魚不足に悩む都民がどっと繰り出した。しかし、「朝日新聞」4月11日付によれば、「収穫」は「場所柄だけに魚が贅沢で」さっぱりだったとか。

飯田市提供

▲飯田市、市街地の8割焼く(4月20日)正午少し前、街の南端から出火、炎は折からの南風にあおられて広がり、4000戸余りをなめつくした。罹災者は約1万8000人にのぼった。

▼フラナガン神父来日(4月23日)マッカーサーが招聘。米ネブラスカ州に孤児らを集めて「少年の町」を創設したカトリック司祭で、政府に孤児問題などを助言、全国をまわり教化活動につとめた。

WWP

▶初の黒人大リーガー誕生(4月10日)ジャッキー・ロビンソンがドジャースと契約。迫害と偏見に抗し、この年新人王を獲得した。写真はホームスチールをする同選手。

▼男女共学、笑顔のスタート(4月1日)教育基本法制定により男女差別が禁止され、小・中学校で男女が同じ教室で学ぶことが義務づけられた。翌年高校にも導入された。

共同通信社

阿木翁助所蔵

▲「ムーランルージュ」再開(4月8日)軽演劇の小劇場として昭和6年に開場したが、数回名称変更、この年、林以文が旧名と土地を獲得、開場にこぎつけた。初の演目は山本浩久構成「スイングショウ」など。

毎日新聞社

昭和22年4月

1(火)●新学制開始。小学校・中学校発足。六・三制や男女共学が基本。
●町内会・隣組などが廃止される。
●上越線高崎―水上間、戦後初の電化完成。
●森川信一座が浪花座で関西初のヌード公演。

2(水)●国連安保理、旧日本委任統治領の南太平洋諸島をアメリカの信託統治領とする案を可決。

3(木)●後楽園球場に初のウグイス嬢が登場。

4(金)●東京都、ゴミの分別収集を開始。

5(土)●第一回統一地方選挙(四人の女性村長誕生)。

6(日)●共産党衆院候補・松本三益が演説中刺される。

7(月)●労働基準法公布(9月1日施行)。

8(火)●新宿に軽演劇の「ムーランルージュ」再開。
●公共職業安定所設置。

9(水)●東京裁判被告・大川周明、精神鑑定で審理除外。

10(木)●東京・中野市場で貨物車三台分の闇物資押収。

11(金)●ボーイスカウト連盟、復活。

12(土)●牧師で日本YWCA会長の植村環、戦後初の公式欧米親善訪問終え帰国。

13(日)●カフェー女給千数百人がトーキョー・ウエイトレス・ユニオンを組織、月給制実現と新聞に。

14(月)●独占禁止法公布(7月20日施行)。

15(火)●日本サイクリング協会設立。

16(水)●横浜で占領軍将校夫人が生け花大会を開催。

17(木)●雑誌を六四ページに制限など用紙割当強化。

18(金)●駅弁値上げ。普通弁当五円・鉄道パン二円。

19(土)●学童の体位は明治末期と同じ、と新聞に。

20(日)●第一回参議院議員選挙(社会四七で第一党)。
●飯田市で大火。四一一〇戸が焼失。

21(月)●この日発表のGHQ占領報告によれば、一月の円・ドル実勢レートは一〇〇対一。

22(火)●NHK「街頭録音」で「ラクチョウのお時」ら街娼へのインタビューを放送。

23(水)●国鉄で急行復活。東京―下関間は五時間短縮。

24(木)●警視庁、嘘発見器を初めて実験。

25(金)●第二三回総選挙(社会一四三、自由一三一)。

26(土)●関西交響楽団が初の演奏会(指揮・朝比奈隆)。

27(日)●社会党書記長、新円再封鎖は行わないと言明。

28(月)●志ん生・円生の「満州」引揚げを歓迎し、金馬・文楽らが日劇小劇場で落語五人会開催。

29(火)●宮内省にも労組結成運動、職員懇話会発足で収拾、と新聞に。
●茨城県那珂湊町で大火、一五〇〇戸が焼失。

30(水)●枢密院と皇族会議を廃止。

証言・あの日この日
中井英夫(24)

2月27日(木) 〈それから近代文学へ行つた。荒氏はせつせと弁当をつくつてゐた。埴谷と本多がゐた。「再び敗れざるもの」を貰つて、暫く話をしてゐると、何だか小柄の、風采の上らない洋服の男が下駄ばきで、一冊の赤い表紙の本を持つてあらはれ、エライ人にちがひない、埴谷たちは立上つて挨拶をし、容易に腰を下さうともせぬ。その男は悠々と中央に腰かけて、紺足袋にチビ下駄といふ足をくんだまま、その赤い本について話をし始めた〉(中井英夫『続・黒鳥館戦後日記』)

歯もほとんど欠けた「風采の上らない」男は開口一番、〈これは皆はエロ本だと思つて買ふんだが、さうぢやないんだ〉と言った。その「赤い表紙の本」はサルトルの小説『嘔吐』、そして風采の上らない男とは、誰あろう、夷斎先生、石川淳その人だった。 (坪内祐三)

毎日新聞社

▲どてら姿の原節子(5月)東宝労組分裂で生まれた新東宝が佐伯清監督で制作中の「かけ出し時代」地方ロケで。映画は8月封切。原(中央)が小津作品「晩春」で大スターになるのは、翌々年である。

▶動物愛護週間始まる(5月28日)東京都と東京レクリエーション協会が主催。6月3日まで、子熊、子猿、ヤギなどを乗せた花馬車の街頭行進や、日比谷公園で紙芝居を見せるなどの催しを行った。

朝日新聞社

▼そろばん日本一(5月18日)全国商工会議所珠算連盟主催で第1回選手権大会が行われ、東京・神田の中央大学講堂に643人が集合。まだ、国民服姿の人々も多かった。

▲元関東軍参謀、石原莞爾が証言(5月1日)膀胱腫瘍で東京裁判に出席できないため、山形県酒田市に出張法廷が設けられた。石原は「自分が戦犯でないのは納得できない」と発言。

▶松本音楽院のレッスン(5月)昭和10年に「誰でも伸びる」と音楽の才能教育を始めた鈴木鎮一は、21年、松本市で教室を再開し、この教室から、豊田耕児・江藤俊哉らが育った。写真は5月撮影。

毎日新聞社

昭和22年5月

1(木)●天皇、宮城内を通行中に日本人記者と初会見。

2(金)●最後の勅令「外国人登録令」公布。

3(土)●日本国憲法施行。
●劇団俳優座、三越劇場で初の新劇公演を開始。

4(日)●足立区で不発高射砲弾が爆発し少年五人負傷。

5(月)●中央線などに女性・子ども専用車両が登場。

6(火)●都の「銅像審判」で東郷平八郎ら追放と新聞に。

7(水)●政府、官吏の基本給を一六〇〇円と決定。

8(木)●GHQ、食糧一五万トンの放出を許可。五月は遅配なしの見こみ。

9(金)●社会・自由・民主・国協、四党連立で合意。
●経済復興会議、値下げ運動への協力を決定。

10(土)●隅田川にポンポン蒸気船が復活、と新聞に。

11(日)●長良川で五年ぶりに観光鵜飼いが復活。

12(月)●取締り強化、値下げ運動強化などの影響で、闇値に初めて下落の傾向が出ている、と新聞に。

13(火)●東京裁判で南京虐殺事件を審理。

14(水)●奈良・法隆寺五重塔の解体修理工事が始まる。

15(木)●大蔵省、インフレ防止に無記名定期預金創設。

16(金)●東京都内七ヵ所に、全国に先駆けて簡易裁判所が設置される。

17(土)●参院無所属議員五八人が「緑風会」を結成。
●石橋湛山蔵相ら三閣僚が公職追放に。

18(日)●第一回全国そろばん選手権大会開催。

19(月)●経営者団体連合会創立(23年日経連と改称)。

20(火)●国鉄、闇転売防止のため、一〇〇キロ以上の遠距離切符に本人確認用の旅行票をつける。
●小津安二郎監督「長屋紳士録」封切。

21(水)●GHQ、日本の呼称として「帝国」の使用禁止。

22(木)●配給大豆粉の下痢をしない調理法が新聞に。

23(金)●衆参両院、社会党委員長・片山哲を首相に指名。

24(土)●飲食店業界代表ら、警視庁と会見。「闇物資徹底取締り」は「非現実的」と主張。

25(日)●新宿・紀伊國屋書店(設計・前川国男)再開。

26(月)●阿蘇山が一四年ぶりに大噴火。
●甲府の銀行が遅くて高い郵便をやめて東京まで飛脚を利用、と新聞に。

27(火)●経済安定本部、基礎産業への重点融資決める。

28(水)●自由党、四党連立への不参加を正式決定。

29(木)●平林たい子「かういふ女」、第一回女流文学者賞を受賞。

30(金)●パン・アメリカン航空、南まわりのアメリカ―アジア航空路開設計画を発表。

31(土)●幣原民主党名誉総裁、三党連立に反対し辞意。

◀「忠犬ハチ公」再建募金（6月）戦時中に金属回収令で撤去された銅像を、もう一度渋谷駅前にと寄金を募った。翌年8月、旧像制作者の長男・安藤士が完成した。

毎日新聞社

▼炭鉱国家管理構想を誇示（6月30日）片山社会党政権は石炭産業国有化をはかったが、結局、間接的国家管理で妥協。写真は常磐炭鉱を視察する水谷商工相。

毎日新聞社

毎日新聞社

▼社会党政権、片山哲内閣成立（6月1日）4月の総選挙で第一党になり、保革連立政権を形成。政権基盤が弱く、9ヵ月の短命で終わった。写真は電車内の片山。4月撮影。

▲セパレーツ水着の登場（6月）食糧への飢餓同様、女性のファッションへの飢餓も強烈だった。写真は新作水着のデモ。形・柄とも、一気に派手で、大胆なものになった。

毎日新聞社

共同通信社

▲新憲法下の第1回国会開会式（6月23日）初の社会党政権、片山内閣が召集。天皇が公式の場で初めて「わたくし」と表現。中央で式辞を読むのは衆議院議長・松岡駒吉。

共同通信社

▼「不敗の木村」敗れる（6月7日）東京・東中野で行われた将棋名人戦で、9年間名人位を守り続けてきた木村義雄（左、42）が塚田正夫8段（32）に敗れた。しかし、木村は2年後、塚田から再び名人位を奪還した。

昭和22年6月

1（日）●社会・民主・国協連立で初の社会党首班・片山内閣成立。外相・芦田均、逓相・三木武夫。
●初診料が無料となり、保険料率も引き下げ。

2（月）●北海道では配給が全道で一ヵ月遅配と新聞に。

3（火）●文部省、学校での宮城遥拝・天皇万歳を禁止。
●GHQ、戦後初の乗用車生産（三五〇台）許可。
●I・バーグマン主演「ガス灯」封切。

4（水）●国鉄労組総連合、単一労組結成に向け解散。

5（木）●米、欧州復興のマーシャル・プラン発表。

6（金）●厚生省、初の産児制限実態調査を発表。

7（土）●将棋名人戦で塚田正夫が木村義雄を破る。

8（日）●日本教職員組合（日教組）結成。
●石坂洋次郎「青い山脈」が朝日新聞で連載開始。
●府中競馬場で三年ぶり日本ダービー復活。

9（月）●閣議、食糧確保・賃金や物価の全面改定など八項目の経済危機突破緊急対策を決定。

10（火）●一水会・二科会などが第一回連合展開催。

11（水）●警視庁、カフェーを喫茶店とし営業再開許可。

12（木）●GHQ、財閥の最高機構は完全に解体と発表。

13（金）●大相撲夏場所で史上初のトーナメント優勝決定戦。横綱羽黒山が力道山などを破り優勝。

14（土）●相模ダム（15年起工）の竣工式挙行。

15（日）●琉球共和国の独立めざす沖縄民主同盟結成。

16（月）●高知高校が食糧難で期末試験中止と新聞に。

17（火）●E・カザン初監督の「ブルックリン横丁」封切。

18（水）●東京地裁、小平事件の小平義雄に死刑判決。

19（木）●日農など七五団体が農業復興会議結成。

20（金）●杉並区で若い女が小学生二人からワンピースをだまし取る（この頃「はぎとり魔」横行）。

21（土）●東北・上越線など主要五幹線に急行が復活。

22（日）●学生のアルバイトは三角籤売りや本売りが主流、慶大生の九割がバイト希望と新聞に。

23（月）●NHK「街頭録音」で片山首相と和田経済安定本部長官が市民四〇〇〇人と対話。

24（火）●米アイダホ州で円盤目撃。初のUFO報告。

25（水）●黒澤明監督「素晴らしき日曜日」封切。

26（木）●警視庁、露店街の暴力団一斉検挙を開始。

27（金）●食糧事情悪化のため欠席がふえている東京都の小・中学校、夏休みの繰り上げを決定。

28（土）●水不足のため、関東地区で一般工場の休電が週一回から二回になる。

29（日）●大相撲で前田山が横綱昇進。第三九代横綱。

30（月）●新潟県で、二八日からの集中豪雨により田畑四万七一〇〇町歩が冠水。

「現場」を歩く 舞鶴

帰還者六六万人が踏みしめた「平引揚桟橋」の復元

山本徹美

▶「引揚記念公園」から見た舞鶴港。手前に、平成六年五月完成の桟橋が見える。 但馬一憲

昭和二二年四月七日、舞鶴港（京都府）に「明優丸」が入港した。船にはソ連のナホトカから乗船した三一一八人が乗っており、彼らは記念すべき祖国の第一歩を「平引揚桟橋」に踏み出した。

それまで約一万人程度にとどまっていたソ連からの引揚げは、この日から活発化。『舞鶴地方引揚援護局史』によると、この年舞鶴港には八三隻が入港、計一七万六五八一人が帰国した。ほかに中国、朝鮮などからの帰還者を加えると、受け入れ総数は九三隻、二〇万一九五二人にのぼった。

上陸した引揚げ者たちはそのまま援護局へ。まずDDT消毒を受け、三泊四日が義務づけられた。その間検疫、診察、留守宅通信、未帰還同胞の消息覚え書き作成などをする。さまざまな事情で帰宅できない場合は、市内四ヵ所に設置された寮に入り機会を待つのである。

平引揚桟橋には全国から出迎え家族が集結、歌謡曲「岸壁の母」で知られるように帰らぬ子や夫を待つ婦人の姿も多かった。引揚げ港としては、昭和二〇年一〇月、一〇港が指定されたが、二五年以降は舞鶴だけとなった。そして、三三年一一月一五日、舞鶴地方引揚援護局は閉局。この桟橋に帰還できたのは六六万四五三一人、遺骨は一万六二六九柱。

朽ちはてていた桟橋

舞鶴市では昭和四五年三月、「引揚記念公園」を建設。その敷地内に「舞鶴引揚記念館」が完成したのは六三年四月だった。「記念館」に行ってみる。地元出身で、同館に勤務する藤野昭氏（六四）は小学生の頃、引揚げ船が着くたびに岸壁から国旗を振りかざして、「お帰りなさい」と叫び、船が来ない日は桟橋でイイダコを引っかけて遊んだ。

「平成九年二月、入館者が一五〇万人に達しました。ここ二年くらいの傾向ですが二〇〜三〇代の若者がふえています」

公園の展望台からは直下に桟橋が見える。これは「引揚を記念する舞鶴全国友の会」によって復元、平成六年五月に完成したものだ。同会事務局長の藤村正巳氏（六七）にいきさつを聞く。

▲舞鶴港は、戦後引揚げ港指定を受けた。写真は当時の舞鶴港。

「桟橋は昭和四〇年頃にはすでに朽ちはてて消えていた。記念館に来館した方から『生きて帰った証であり、今後も御霊が還るべきあの桟橋が跡形もないとは』とのご意見から、復元の気運が高まったのですが、規制が多くて大変でした」

援護局跡地は昭和四一年、舞鶴市が誘致した合板製造会社のものになっていた。港湾を管理する京都府はその会社がナホトカから運んできた木材の貯木目的に使用することを条件に許可していたため、桟橋を復元するには市と府の合意が必要で、時間はかかったが、話し合いによって解決することができた。

平引揚桟橋に立つ。ほんの一〇メートル先にはシベリア産の大木が浮かんでいる。いまだにここへたどり着けないでいる何万柱のうちのいくつかの御霊は、その樹木が生えていた地に今も眠っているのかもしれない。

ベストセラー

発禁本の"ダブー"に挑戦した『人生論ノート』『完全なる結婚』

すでに刊行され、その後発禁状態におかれていた、三木清の『人生論ノート』がベストセラーになった。戦時下で読めなかったものの中にこそ、本当に知りたいことが書かれているのではないかという期待感があったようだ。

このことは、堂々ベストセラーとなった『完全なる結婚』にも言えることだ。オランダの産婦人科医ヴァン・デ・ヴェルデが著した、性の医学書であり、セックスの指南書でもあるこの本は昭和五年に、雑誌「改造」で初めて紹介され、同じ年に抄訳が刊行されたものの、ただちに発禁となり、終戦まで"幻の本"になっていた。それが昭和二一年にいたって、大洋社から、続いてふもと社からも刊行された。セックスを真正面から取り上げることなど、あらゆる欲望が抑圧されていた戦時下では考えられなかっただけに、この本の内容は衝撃的だった。

セックスが生理学的にどういうものであるのかをこと細かに説いたうえ、セックスにおける男女の関係について、この本はまったく新しい考え方を提示していた。セックスは男性が一方的に満足を求めるものではなく、男性は女性が歓びを得られるようにふるまい、その女性の歓びを通して、男性も満足を得るというものので、これはまさに"男女同権時代"にふさわしい斬新な考えだった。

抑圧された欲望を解放するという意味では、この年あたりから、性風俗雑誌、いわゆる"カストリ雑誌"が一大ブームを巻き起こしていた。そんな中、戦後初めて警察当局に摘発・押収されたのは「猟奇」という名の雑誌だった。すごい人気の雑誌だったが、摘発され、結局は五号で廃刊となった。

●昭和22年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『旋風二十年』（森正蔵／鱒書房）
2位	『愛情はふる星のごとく』（尾崎秀実／世界評論社）
3位	『完全なる結婚』（V・D・ヴェルデ／ふもと社）
4位	『凱旋門』（E・M・レマルク／板垣書店）
5位	『漱石全集』（全18巻／夏目漱石／岩波書店）
6位	『人生論ノート』（三木清／創元社）
7位	『風知草』（宮本百合子／文藝春秋新社）
8位	『自叙伝』（河上肇／世界評論社）
9位	『哲学ノート』（三木清／河出書房）
10位	『キューリー夫人伝』（E・キューリー／白水社）

全国出版協会出版科学研究所

日本近代文学館提供

▲『人生論ノート』（創元社、50円）

▲『完全なる結婚』（ふもと社、25円）

▲戦後摘発第1号となった「猟奇」の表紙。写真は創刊号。

スターと名場面

観客動員五〇万人の大当たり 焼け跡の女たちと「肉体の門」

この年、舞台の方で大ヒット作が生まれた。田村泰次郎原作の「肉体の門」である。劇団・空気座が新宿の帝都座五階劇場で上演したところ大好評。六ヵ月というロングランと五〇万人という観客動員を記録して、さらに話題を呼んだ。

ストーリーは、焼け跡の娼婦たちの生きざまを描いたもの。敗戦とともに娼婦に身を落とした女性たちが、廃墟となったビルの地下室で共同生活をいとなむという、どこにあってもおかしくないリアルな設定もよかったが、それ以上に、若い女性の肉体が躍動し、時には素肌を大胆に見せる舞台が、開放的で新鮮だった。戦時下で閉ざされ封じこめられていた感覚を一気に蘇らせる舞台だったのだ。帝都座を皮切りに、日劇小劇場や全国の主要都市へも巡回興行するほどの人気を獲得したのも当然だった。

映画では、吉村公三郎監督の喜劇的映画「象を喰った連中」で、戦時下の映画では生真面目な役の多かった笠智衆が、コミカルに、それもチャップリンに似せてふるまったのが、時代の空気を感じさせた。笠智衆は、小津安二郎監督の戦後復帰第一作となった「長屋紳士録」にも出演しているが、こちらは、親にはぐれた子どもをめぐっての人情話で、厳しい時代にふさわしい映画だった。

映画では前記のほか、次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「今ひとたびの」（高峰三枝子）

「銀嶺の果て」（三船敏郎）

「女優須磨子の恋」（田中絹代）

「安城家の舞踏会」（原節子、滝沢修）

石井幸之助

▲空気座による「肉体の門」の舞台。ボルネオ・ヤマに扮して豊かなバストを披露したのは三条ひろみ（中央）。

松竹提供

▲「長屋紳士録」で強くてやさしい女性に扮して好評だった飯田蝶子（右）。

▶「象を喰った連中」でコミカルな演技を見せた笠智衆（右）。

松竹提供

モノ語り'47

「トヨペット」「ホンダの自転車オートバイ」"戦後復興"はスイスイ走る乗りもので

◀**暗い時代を照らし出したライト** 終戦直後はとにかく停電が多かった。暗い夜を余儀なくされることが少なくなかったのである。そんな時、大きな光源で明るく周囲を照らし出した「ハウスライト」、通称「停電灯」は大変重宝だったのでよく売れ、一時は生産が追いつかないほどだった。生産したのは三洋電機製作所（現・三洋電機）で、中に入れる電池は「ナショナル平型4号」という松下電器製のものだった。

▲**通称「自転車オートバイ」が走った** 手持ちの自転車に簡単に取り付け、たちまちオートバイに変身させることができる「ホンダA型エンジン」が、本田技術研究所（現・本田技研工業）から、この年12月に発売された。新設計の空冷2サイクル単気筒、50ccのロータリーバルブエンジンで、変速装置は、クラッチと兼用のベルト手動式だった。昭和26年まで生産され、人気を誇った。

▼**新憲法の周知徹底に切手も** いわゆる"新憲法"が施行されたのは、この年の5月3日だったが、それを記念して、この「日本国憲法施行記念切手シート」が発売された。シートには憲法前文の抜粋が記載されており、憲法の周知徹底をはかろうとしていた様子が見てとれる。五十銭切手と一円切手が組み合わされていた。

▲**アッと驚く100万円宝籤** 日本勧業銀行（現・第一勧業銀行）はこの年の12月、特等賞金100万円という画期的な宝籤を発売して、大いに世間を沸かせた。なにしろ、まだまだ贅沢品だった国産乗用車が数十万円、ミシンが1万円、そして標準家庭生計費が1ヵ月1294円と算定されていた時代だったのである。賞金100万円の衝撃は大きかった。

▼**回虫駆除の特効薬を国産** まだ衛生環境が不十分な時代は、寄生虫に悩まされる時代でもあった。中でも回虫は最も一般的で、その特効薬「サントニン」の需要も大きかった。サントニンはすでに大正時代から、ロシアからの輸入にたよっていたが、昭和15年、日本新薬がミブヨモギを原料とした国産化に初めて成功、戦後もいち早くその製造に取り組んだ。そしてこの年には生産量も急上昇。健康維持に大きな役割をはたしたのである。

▶**戦後復興はキャラメルから** 労働力の飢餓状態に悩んだ政府は、キャラメルなどをエネルギー源にしようと、米軍にキャラメル生産用原料の提供を要望し、昭和22年10月、ココア1511トン、砂糖2603トンの大量放出を得た。そして翌年3月から、主要菓子メーカーは一斉に「ココアキャラメル」の製造を開始、8月には、全国の学童と、鉄鋼・石炭などの重要労働就労者に配給された。写真はリーダーシップをとった森永製菓製造のココアキャラメル。

▶**国産の本格的乗用車が走った** トヨタ自動車工業（現・トヨタ自動車）が初めて世に出した、排気量995ccの小型乗用車「トヨペットSA型」は、"4輪独立懸架"を採用し、乗り心地のよさを特徴としていた。最高時速は87キロだったが、当時としては高級車で、値段も91万円だった。ちなみにこの年の労働者の平均月給は1950円である。なお「トヨペット」の愛称は、一般公募によって生まれたもの。

人物クローズアップ

笠置シズ子(三三)
日本中がエイトビートに酔った「東京ブギウギ」誕生の〝秘話〟

昭和二二年九月、大阪・梅田劇場で公演中の笠置シズ子(三三)が、後に日本中を明るいビートで酔わせたブギ・ブームの火つけ役となる「東京ブギウギ」を発表した(作詞・鈴木勝、作曲・服部良一。レコード発売は翌年一月)。

笠置は、大正三年香川県に生まれ、小学校卒業と同時に大阪松竹楽劇部(OSKの前身)に入る。昭和一三年に松竹楽劇団の旗揚げに加わるため上京した。

当初、ジャズ歌手として出発した彼女をブギに挑ませるきっかけになったのは、この年五月の婚約者・吉本穎右の突然の死だった。

吉本は吉本興業社長の一人息子で、まだ早稲田の学生だった。この芸能人と年下の学生という異色のカップルは、周囲の反対を押し切り、ようやく結婚を許されたばかりだっただけに、吉本の死が与えたショックは大きかった。

だが、吉本の忘れ形見をかかえていた笠置は、いつまでも哀しみに沈んでいるわけにはいかなかった。笠置はジャズ歌手時代からコンビを組んでいた作曲家・服部良一のもとを訪れた。

「『センセ、たのんまっせ』といわれて、ぼくは彼女のために、その苦境をふっとばす華やかな再起の場を作ろうと決心した」と、服部は自伝(『ぼくの音楽人生』日本文芸社刊)で述べている。その服部が、買い出し客で混みあう国電車内で、吊り革の揺れにインスピレーションを得て作曲したのが「東京ブギウギ」である。この曲はたちまち人々に愛され、昭和二四年五月までに、レコードが一〇万枚を超えるヒットとなった。

この曲を歌いながら、持ち前のバイタリティーで逆境に立ち向かう笠置の姿は、終戦からまだ二年余り、敗戦のショックから立ち上がろうとする日本人の心をたちまち虜にした。そんな彼女にとりわけひきつけられたのが、「夜の女」たちだった。

昭和二五年六月、笠置と服部の渡米歓送ショーが行われた日劇には、そうした女性たちが大挙駆けつけ、ブギの本場アメリカへ旅立つ笠置を祝うひとコマも見られた。

「夜の女」たちと笠置シズ子……ともに逆境に生きる彼女らにとって、そもそも恵まれないながらも強く生き抜く黒人のリズムだったブギのエイトビートこそ、共感できる心のリズムだったのかもしれない。

激しいビートに乗り、底抜けに明るさを放つ笠置のブギ節は「東京ブギウギ」に始まり「ヘイヘイブギ」「ジャングルブギ」など、そして四五万枚を売り上げた「買物ブギ」の大ヒットへと続いた。

その〝ブギの女王〟が逝ったのは、昭和六〇年三月三〇日。

「『もし彼女がいなかったら、私もブギを作曲することはなかったろう』と、父から聞かされた」と故・服部良一の息子・服部克久氏(作曲家)は語っている。

▲昭和22年10月、日劇の楽屋で、生後4カ月の長女・江以子をあやす笠置シズ子。 亀井江以子提供

共同通信社

▲新しいリズム「ブギウギ」を、笠置シズ子は強烈なバイタリティーで歌いまくり、その後も「ヘイヘイブギ」「ジャングルブギ」など、昭和26年までに12曲のブギをヒットさせた。

▲エリザベス王女とフィリップ殿下。エリザベスは、同じウエストミンスター大聖堂で、1953年6月2日、戴冠式を行う。 Popperfoto ユニフォトプレス

決定的瞬間

世界に流れた〝愛の誓い〟エリザベス英国王女のロイヤル・ウエディング！

一一月二〇日午前一一時二八分。ファンファーレがウエストミンスター大聖堂に鳴り響き、二一歳のエリザベス王女は、父のジョージ六世（五一）につきそわれて、教会の西口から現れた。

ウエディングドレスは象牙色の繻子の生地にパールと水晶とが何千個も織りこまれ、ベールの裾の長さは約四・五メートルもあった。また彼女がかぶっている薄布にはパールとダイヤモンドがちりばめられ、将来イギリス連邦の女王となる女性にふさわしい豪華さであった。

王女とギリシア王室出身のフィリップ殿下（二六）は緊張した面もちで祭壇に向かう。参列していたチャーチル前首相（七二）は二人が横を通りすぎる時、にっこりと笑いかけた。彼は誰よりも王室を敬愛する一人であった。だから第二次世界大戦を勝利に導き、王室の威厳を守りえたことの喜びを、心から噛みしめていたのである。

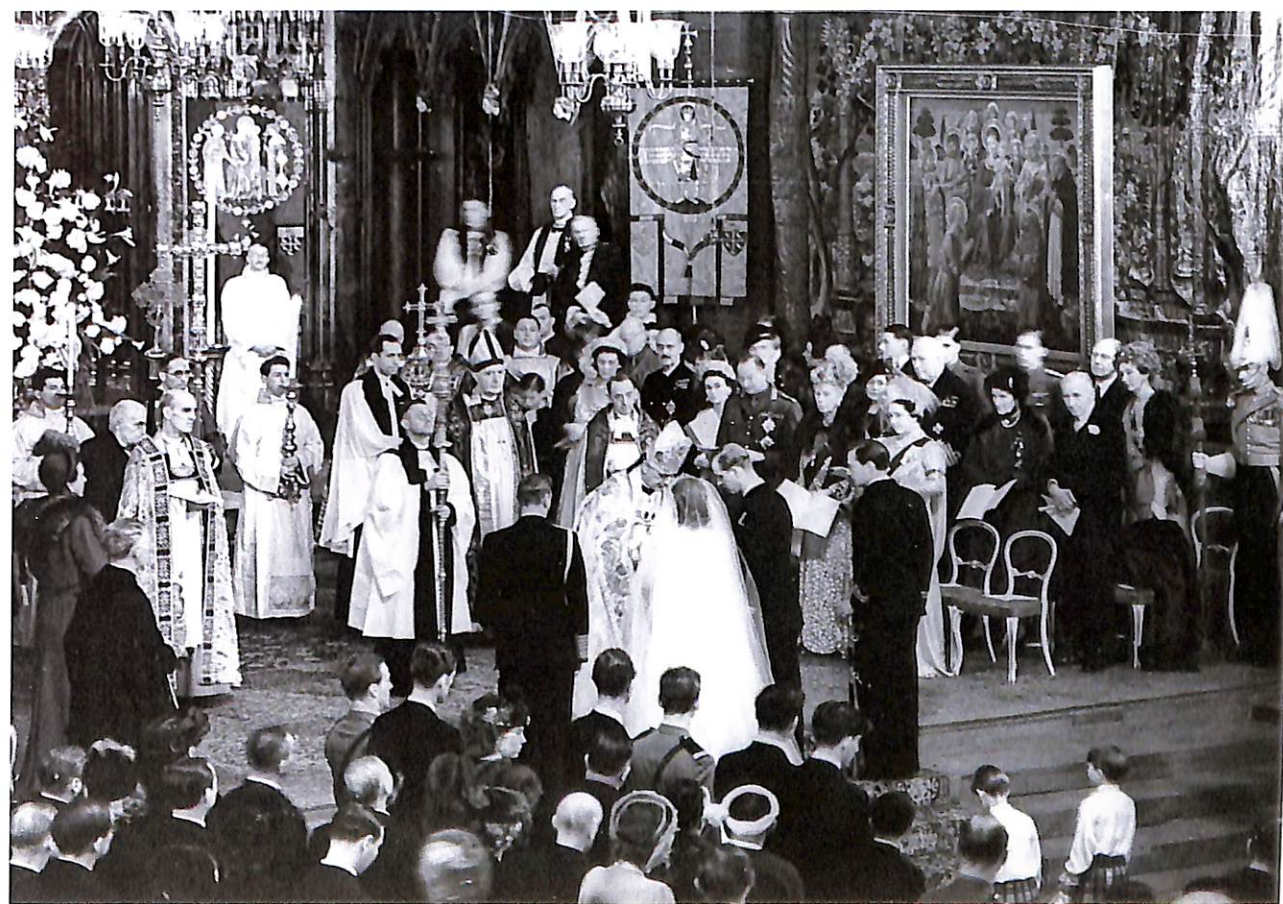
イギリス国教会の最高位を占めるカンタベリー大主教はおごそかに式文を読みあげ、二人がとこしえに愛を誓うことを求めた。"I will."とこたえる王女と殿下の声は世界にラジオ放送された。式場には三〇〇〇人の人々が招待されていたが、フィリップ殿下の三人の姉妹は参列していなかった。姉妹たちはそろってドイツ人と結婚していたために、この式に参列するのを遠慮したのである。第二次世界大戦の影がまだ深くヨーロッパをおおっていた。

式は四五分で終わり、二人を乗せた馬車はバッキンガム宮殿に向かう。朝からの雨もあがり、沿道には多くの市民が詰めかけて二人の姿を一目見ようと寒風の中を待っていた。そして市民たちは「われらの王女よ」「よい娘はみんな水兵がお好き」という当時の流行歌を歌いながらバッキンガム宮殿に集まってきた。

二人の結婚に対して、世界中からたくさんのプレゼントが贈られた。その数は二五八三個におよび、これらのプレゼントはすべて番号がつけられてロンドンのセントジェームス・パレスで公開された。

父ジョージ六世からはサファイアとダイヤをあしらったネックレスとイヤリング、母クイーン・メリー（四七）からは宝石、妹のマーガレット（一七）からはシャンペングラスとピクニックセット。アメリカのルーズベルト元大統領夫人からはタオルとバスマットなどである。二人が最も気に入った贈り物は、インドのガンジーから贈られたレースのテーブルクロスだったそうである。この年の八月インドは独立していた。しかし、それ以上にエリザベスの心を打ったのは結婚直後にもらった一通の手紙だったろう。

「おまえの去ったこの家は、何かぽっかりと大きな穴が空いたように思えます。しかし、この家はいつでもおまえのものであり、いつでも、そしてできるだけ何度も帰って来てください」

父ジョージ六世の、嫁いだ娘にあてた手紙である。

▲神の前で誓いの言葉を述べる二人。この日は英連邦あげての祝日となった。 Popperfoto ユニフォトプレス

美の出会い

リアルな絵と冒険活劇で子どもたちを熱狂させた山川惣治『少年王者』刊行

▲「魔神ウーラ篇」表紙。 清水勲提供

▲「赤ゴリラ編」表紙。 清水勲提供

昭和二二年一二月、山川惣治（三九）の代表作『少年王者』第一集が集英社から刊行された。初版三万部は数日で完売、たちまち三〇万部とも五〇万部とも言われる大ヒット作となった。その後『少年王者』は順次単行本として刊行され、第八集で解決編となる予定が、圧倒的人気のため予定を変更して第一〇集まで続けられた。子どもたちは戦後の焼け跡の中で、この本をボロボロになるまでまわし読みしたのだった。

山川惣治夫人・好枝さんが、当時の『少年王者』ブームを語ってくれた。

「『少年王者』の発売日には、街の書店主さんたちがリュックサックをかついで版元に並んだそうです。主人も書店を見て歩き、数日でなくなるのを知るとホッとしていました。その後、いろいろな出版社や新聞社の方たちが見えて注文されましたが、主人はひとつの仕事しかやらないので、編集の方たちは順番待ちで大変だったようです」

『少年王者』のデビューは、紙芝居によるものだった。山川はすでに戦前から紙芝居のための絵を描いていたが、業者が倒産したため中断していたのだった。映画で「ターザン」や「ジャングルブック」を見ていた山川は、「いつかあんな素晴らしい物語を作ってみたい」という思いを、戦争の間ずっと胸の中であたためていた。

そんな折の昭和二一年、紙芝居屋からの注文があり、彼は思っていることのすべてを『少年王者』に描きこんだのだった。紙芝居は大当たりして、戦後まもない街の子どもたちを魅了した。この評判に注目した小学館の社長相賀徹夫が、系列会社の集英社から刊行したのである。

『少年王者』の舞台であるアフリカのコンゴ地方は、当時の日本人にとって、〝未知の暗黒大陸〟というイメージしかなく、山川自身、一度も訪れたことがなかった場所である。それだけに物語の方は、自由奔放に膨らんだと言えるだろう。

ストーリーは、ライオンにさらわれた主人公の少年・真吾が、雌ゴリラに育てられてたくましく成長するところから始まる。魔神ウーラやモンスター・ツリー、ガラ族などとの戦い、救援隊に同行する少女・吉川すい子とのほのかな恋、真吾らを助ける怪人アメンホテップの謎などがおりこまれた冒険活劇である。

山川惣治は、少年が正義と勇気を持って苦難に立ち向かい克服していく姿を好んで描いた。『少年王者』に続いて産経新聞社から刊行された『少年ケニヤ』『少年タイガー』でもこの姿勢は変わることはなかった。当時の少年たちを感動させたのは、この山川のロマンチシズムと、真に迫る動物や風景の描写にあったと言えるだろう。

「主人は六〇歳をすぎて初めてアフリカに行きました。実際に見たアフリカは、自分の描いたものとそんなに違ってなくて安心したと言ってました」と山川夫人が言うように、彼は映画の「類人猿ターザン」やアフリカ関係の多くの書物をよく調べながら描いたそうである。

少年の頃から大人が驚くほど絵が上手だった山川惣治は、芝居好きの祖父や伯母に連れられて、よく活動写真や芝居、寄席に出かけていった。その頃から、彼は「看板絵のような大きな絵」を描いてみたくて仕方なかった。

昭和五年、山川惣治は兄の惣重と山川美術社を設立し、似顔絵や版下などの仕事をしていた。ついで昭和七年、そうじ映画社を設立し、紙芝居の制作を開始。昭和一三年には文部省主催の日本紙芝居コンクールで「勇犬軍人号」が一位になった。その頃、講談社の雑誌「少年倶楽部」の須藤編集長と知り合い、同誌に「ノモンハンの若鷲」など、数々の絵物語を掲載していた。

戦後は、この『少年王者』で絵物語の第一人者としての地位を築き、以後、『少年ケニヤ』『海のサーブ』『ノックアウトQ』『少年タイガー』など、いくつもの傑作を生み出し、多くの少年ファンに熱狂的に迎えられていった。

角川文化振興財団提供

▲戦後の少年向け絵物語をリードした『少年王者』の著者・山川惣治。

(57) 「だがザンバロはどうしたのだろう。しゅうねんぶかいガラ族に，とうとうつかまって
ったにちがいない。あの残忍なガラ族は，ザンバロにどんなことをするかわからない。一刻も
やく助けださなければ……」眞吾は友を思う心でいっぱいだった。密林の枝をつたって，
の部落の見えたほうがくへ急いだ。密林の大木は，たがいに枝と枝とをからみあわせ，空をお
ってうす暗かった。太いつたが無数にたれさがる大枝の上に，らんらんと光る目が，猿よりも
ばやく枝から枝へとはしって近ずく眞吾を，じっとねらっていた。

▲『少年王者』第3集「魔神ウーラ篇」の一場面。紙芝居の手法を引き継いだ「絵物語」では絵と文が別々に割りつけされ、絵の迫力が重要視された。 清水勲提供

20世紀博物館

ブリキのおもちゃ博物館

外貨獲得に貢献した「メイド・イン・オキュパイド・ジャパン」の名品

神奈川・横浜市

桑原茂夫

◀このロボットの色違いの種類の中には、希少価値から、現在数十万円以上するものもあるという。

戦後いち早く復活した産業のひとつにおもちゃ産業がある。特にブリキのおもちゃなどは、占領下であったにもかかわらず、アメリカからたくさんの注文を受けて生産し、外貨を獲得したほどだ。

優れた技術を買われたのだが、原材料となる肝心のブリキなどあるわけがない。

薄い鉄板を錫(すず)でおおったのがブリキ。その鉄板が戦争で払底(ふってい)してしまったのだから お手上げである。それでブリキは発注者であるアメリカから提供された。主として、彼らの缶詰の空き缶が原材料になった。

できあがったものは、やはり好評だった。MPが乗っているバイク、ニュースボーイ（新聞売りの少年）、タップを踏むフレッド・アステアなど、いかにもアメリカ好みのおもちゃだったが、どれにも、「メイド・イン・ジャパン」ならぬ、「メイド・イン・オキュパイド・ジャパン（占領下の日本製）」と銘打たれた。

実は今、ブリキのおもちゃのマニアの間で、この時期のものは「オキュパイドもの」という通称で呼ばれ、なかなかの人気なのだという。

▲1930年代までに作られたブリキのおもちゃ。　平野美津子

ブリキのおもちゃを製造する優れた技術は、戦後の混乱期にも発揮されたわけだが、その技術は、一九〇〇年代から一九三〇年代にかけて磨かれ培(つちか)われてきたものだ。つまり明治時代の後半から戦前にかけてのこと。

この博物館には、その時代のものも含めて、三〇〇〇点ほどのブリキのおもちゃが、ところ狭しと並べられている。ケースの中にびっしりと詰まったその様子は、壮観でさえある。

通りに面しているのは、おもちゃやさまざまなグッズを販売するショップで、博物館はその奥にある。学校帰りの少女たちであふれるにぎやかなショップの向こうに足を踏み入れると、たちまち、これもにぎやかなブリキのおもちゃに取り囲まれてしまう。ブリキのおもちゃはカラフルにプリントされているものが多いから、よけいにぎやかに感じられるのだろう。

オートバイとスクーターでいっぱいのケースがあるかと思うと、キャデラックなど、一九五〇年代の外車が勢ぞろいしたケースや、各種飛行機でいっぱいのケース、いろいろな恰好(かっこう)をしたピエロや、うさぎなどの動物たち、それにポパイや鉄腕アトムなどキャラクターものを含む人形が押し合いへし合いしているコーナー等々。ブリキのおもちゃのコレクターなら垂涎(すいぜん)ものの貴重品も少なくない。

それもそのはずで、ここはブリキのおもちゃにかけては世界的なコレクター、北原照久さんの博物館なのである。

北原さんは、コレクションしているだけではない。ブリキのおもちゃを、今でも製造できる工場を見つけ、復刻版を作って販売している。つまり技術の継承を、きわめて具体的に手がけてもいるのだ。どんなおもちゃにも、生き生きした生命が感じられるはずである。

▲人形たちがびっしり詰まって、にぎやかなコーナー。

●ブリキのおもちゃ博物館
神奈川県横浜市中区山手町二三九
☎〇四五―六二一―八七一〇
JR根岸線石川町駅下車、徒歩一五分
開館時間＝一〇時～一九時
休館日＝年中無休
入館料＝大人二〇〇円

▲「港の見える丘公園」の近くにあるTOYS CLUB。この奥に博物館がある。

「主権在民」「戦争放棄」「基本的人権の尊重」に期待して――

歌と踊りのアトラクションに花電車 お祭り気分の中で「日本国憲法」施行

◀新憲法普及のため、憲法普及会東京都支部は、紙芝居業界の協賛で、「新憲法施行記念紙芝居」を都内各地で行った。わかりやすい説明で、好評だった。　朝日新聞社

日本国憲法が施行された昭和二二年五月三日から一週間、日本各地では多彩な記念行事が催され、国中が祝賀ムード一色に塗りつぶされた。ポツダム宣言の受諾から一年八ヵ月、この新憲法は、人々に新たな感動を呼び起こし、日本は戦後への第一歩を踏み出した。

解放感にあふれた施行祝賀の記念行事

五月三日、横なぐりの雨にもかかわらず宮城前広場には、雨傘やかっぱ姿の約一万人もの人々が詰めかけ、一〇時三〇分から新憲法施行の記念式典が行われた。

式典終了後、天皇（四六）がみずから傘をさし壇上に立つと、広場を埋めつくした群衆からは、「天皇万歳」の声が沸き上がり、吉田茂首相（六八）の音頭による、万歳三唱の大合唱が雨中に響き渡った。

午後一時、日比谷公会堂での式典には

二千人余が参加した。永井浩憲法普及会事務局長の挨拶に、歌と踊りも加わり、会場は祝賀ムードに満ちあふれた。

丸の内・帝国劇場の記念式典も華やかだった。午後三時、芦田均憲法普及会会長の挨拶に続き、「式典交響曲」の演奏、諏訪根自子による「偉いなる朝」のバイオリン独奏、六世尾上菊五郎が「京鹿子娘道成寺」を踊るなどのアトラクションにお祭り気分は盛り上がった。

翌日四日の東京は薄曇り、前日の雨のため順延されていた一台一〇万円もかけた花電車が、一五年一一月の「皇紀二千六百年祝典」以来六年半ぶりに五台登場。国会議事堂に菊をあしらい、一人の女性を女神にかたどった「国の光」号を先頭に、東宝専属のジャズバンドを乗せた「音楽」、そして「平和」「末広」「黎明」の順で都内を一巡し、沿道を埋めた人々からは拍手、喝采が沸き起こり、憲法の施行を祝い合った。

当時庶民に親しまれた紙芝居も一役買った。東京の街頭には、紙芝居業界の協賛による「新憲法施行記念紙芝居」が繰り出し、「コクミンが一番エライのであります」と熱演、そのわかりやすさが人気を集めた。

地方でも状況は同じであった。新憲法に関する講演などが次々と開かれ、青年団を中心に普及活動も活発化した。また、浜松では名物の大だこ揚げ、山形では記念植樹、福島では仮装行列と、全国各地で多彩な記念行事が繰り広げられた。

新憲法に夢と期待を 戦後日本のスタート

新憲法への期待は大きく、国民は「主権在民」「戦争放棄」「基本的人権の尊重」という憲法の三原則に、新しい日本の姿を予感した。

前年の四月一七日、政府の憲法草案が発表されると、さっそく「毎日新聞」が世論調査を実施した。その結果、政府案を支持する人が八五パーセント、反対が一三パーセント、焦点となった天皇制については「天皇制廃止反対」が八五パーセント、「廃止」一一パーセント、「戦争放棄」への賛成も八五パーセントと、多くの国民が政府案を受け入れていた。

日本国憲法の公布は前年一一月三日、一二月一日には国会の決議により憲法普及会が発足、全都道府県に支部が結成されると、各地で講演会や討論会が開かれた。普及会はまた、「新しい憲法・明るい生活」と題するパンフレット二〇〇〇万部を作り、国内全戸に配付。「新憲法の成立」など五本の映画を製作し全国を巡回上映するなど、積極的な普及活動を展開した。

国民の反応もすばやく、仙台の「夕刊とうほく」は「日本民族復興への歓喜の爆発であり、古い封建の殻を脱しようとする国民のおののきである（略）明るい日本がまさに発足したのである」と伝えている。

この新憲法を国民はどう受けとめたのか。独協大学法学部教授の古関彰一氏は、「明治憲法にはなかった女性や子ども、平和といった条文も加えられ、しかも初めて口語体で書かれ、身近で親しみやすいものになりました。しかしなんといっても解放感を与えたということが大きいでしょう。兵隊にとられ人を殺さなくてもすむ、家に縛られず自由に結婚できる、警官はむやみに人を逮捕できない、といった安堵と新生活が始まるという喜びの声が多かったようです」と語る。

この年八月には、文部省が中学校用副読本『あたらしい憲法のはなし』を発行、その中には「こんな戦争をして日本の国はどんな利益があったのでしょうか。何もありません。これからさき、日本には陸軍も海軍も空軍もないのです。しかしみなさん、けっして心細く思うことはありません。日本は正しいことをほかの国より先に行ったのです」と記されていた。

戦後日本は、新憲法に夢と期待をのせ新たなスタートを切ったのである。

◀ＧＨＱ（連合国総司令部）が新憲法啓蒙のために作製したポスター。新憲法の内容を簡潔に説明している。 毎日新聞社

▲宮城前広場で行われた新憲法施行記念式典に出席の天皇。式は芦田均憲法普及会会長の開会の辞で始まった。 共同通信社

▼東京では新憲法施行祝賀の花電車が登場、都民の人気を集めた。

国立公文書館提供

▲新憲法は衆議院、貴族院で可決され、昭和21年11月3日に公布。写真は公布の詔書。

フォト＋日録で再現する365日

▲**財閥解体（7月3日）**ＧＨＱが三井物産・三菱商事解体に関する覚書を交付。持株会社整理委員会が両社の株券を押収し、両社合わせて約340の小会社に分割されることになった。

毎日新聞社

▶**関東尾津組ついに解散式（7月）**戦後新宿で初めて青空マーケットを開催、闇屋の「顔役」と言われていたが、組長・尾津喜之助が懲役8年、罰金50万円の判決を受け、警視庁からも解散勧告が出ていた。

共同通信社

◀**「軍神」広瀬武夫中佐の銅像撤去（7月21日）**ＧＨＱの指令に基づき、東京都は都内の忠魂碑・銅像20基を審査、9基の撤去を決め、この日神田万世橋で作業を開始した。

明治大学考古学博物館提供

▶**登呂遺跡調査再開（7月13日）**昭和18年に軍需工場拡張工事で弥生時代の住居跡や水田跡が発見されたが、戦時のため中断。この日調査関係者らがあらためて鍬入れ式を行い、翌日から大規模な発掘が開始された。

毎日新聞社

◀**「ミス日本」花盛り（7月25日）**後楽園球場で3日間行われた「ミス日本選抜野外舞踏大会」に73人が参加。後藤綾子さんが優勝、厚生大臣賞と賞金1万円などを獲得した。

▼**女子野球大会開催（8月29日）**横浜ゲーリッグ球場（現在の横浜球場）で日本ビクター横浜工場、日産など6チームが優勝争い。選手たちの明るい歓声に日本の平和を実感した人は多かった。

朝日新聞社

昭和22年7月

1（火）●ＮＨＫ「向う三軒両隣り」放送開始。●公正取引委員会、設置（委員長・中山喜久松）。

2（水）●都、価格高騰理由に青果のせり売りを禁止。

3（木）●国務相、潜在合わせ失業者八〇〇万人と答弁。●ＧＨＱ、三井物産と三菱商事の徹底的解体を指令。政府、両社の所有株券を押収。

4（金）●初の『経済白書』発表。副題は「財政も企業も家計も赤字」。

5（土）●食糧危機対策で、外食券食堂などのぞき全国三三万軒の飲食店が休業（裏口営業さかんに）。●ＮＨＫ「鐘の鳴る丘」放送開始。

6（日）●対米英ソ中賠償用の旧海軍艦艇三六隻出港。

7（月）●国鉄運賃三・五倍に値上げ。私鉄も値上げ。

8（火）●生活保護法による扶助基準引き上げ。五人家族で六三〇円が九一二円に、と新聞に。

9（水）●巣鴨でサッカリン密造中薬品爆発、二人重傷。

10（木）●新潟県、地すべり続く根知村などに移住命令。

11（金）●都消費者物価は敗戦時の四・三倍と新聞に。

12（土）●藤原歌劇団、帝劇で「タンホイザー」を初演。

13（日）●静岡県で登呂遺跡の発掘が再開される。

14（月）●社会党特別委、炭鉱国家管理法案大綱を決定。

15（火）●地質学者・水上武、浅間山の大爆発を予測（8月14日爆発。登山者一一人が焼死）。

16（水）●東京・新橋の闇市を仕切った松田組が解散。

17（木）●食糧事情悪化。東京の配給の遅れは月末に二五日分、秋には四〇日分になる勢い、と新聞に。

18（金）●横浜で、国内初のＢ級戦犯法廷が開廷。

19（土）●都引揚者団体連合会、旧陸軍技術研究所の空家五〇〇棟を占拠（22日引揚げ者へ開放決定）。●『西田幾多郎全集』刊行。三日前から徹夜行列。

20（日）●沖縄人民党結成（9月10日、沖縄社会党結成）。

21（月）●銅像追放第一号で「軍神」広瀬武夫像を撤去。

22（火）●日本産児制限連盟発足。

23（水）●隠匿物資摘発を種に恐喝した経済安定本部調査官を前橋地検が検挙。

24（木）●東京都、主食欠配の補給に佃煮を配給。

25（金）●平野力三ら日農脱退派が全国農民組合結成。

26（土）●東京で集団食中毒続発。三日で四八七人被害。

27（日）●鎌倉一三万、片瀬海岸二〇万人の記録的人出。

28（月）●滝沢修・宇野重吉らが「劇団民芸」を結成。

29（火）●東京・築地の小料理屋などが銀座で生活資金獲得売り立て会を開き、商売道具を売る。

30（水）●戦災復興院、全国の家屋復興は二六%と発表。

31（木）●出版・新聞の公職追放拡大され六七社追加。

証言・あの日この日

石橋湛山（62）

5月8日（木）〈……渡辺〔武〕終連部長より　今朝ガバーメントセクションより予に対するパーヂ覚書発せられたりとの報あり　続いて外務省終連〔終戦連絡事務局〕より該覚書写到着　理由承認し難し／午後一時すぎより吉田片山会談、三時頃首相官邸に総理訪、予のパーヂ問題を語る、総理の認識驚くべし〉（石橋湛山『湛山日記』）

吉田茂内閣の大蔵大臣だった石橋湛山はＧＨＱ（連合国総司令部）の公職追放者リストに自分の名前が加えられたことを知り驚く。彼が社長をつとめた「東洋経済新報社」が日本の軍事的全体主義と経済的帝国主義を支えたからというのがその理由だが、言いがかりもはなはだしかった。しかし首相の吉田茂は頼りなかった。業を煮やした彼はこの晩、翌朝4時までかかって、ＧＨＱの覚書に対する抗議書を起草する。（坪内祐三）

毎日新聞社

▲**天皇、引揚げ者と対面（8月16日）**東北地方巡幸中、山形県新庄町で引揚げ者の寮を訪問した。天皇は顔を紅潮させ、じっと感情をおさえていたと伝えらえる。この年、天皇は、22の府県を訪問した。

▼**筏で太平洋横断（8月7日）**ノルウェーの人類学者ヘイエルダールら6人がポリネシア人南米渡来説を実証するためペルーを出発。「コン・ティキ号」は102日間の航海のすえ、この日、ツアモツ諸島に到達した。

キーストン

▲**統一インドならず（8月）**英領インドが分裂、14日にパキスタン、15日にインドが独立した。写真はマウントバッテン総督を囲んで独立問題を協議するネルー（左）とジンナー（右）。

▼**民間貿易再開（8月15日）**食糧輸入の見返りとしてＧＨＱが許可。雑貨が多く輸出品にはMade in Occupied Japan（占領下の日本）と記入。写真はホテルでの日米取り引き相談。

共同通信社

月刊沖縄社

▲**「放出食糧」料理講習会（8月26日）**銀座の松坂屋でＧＨＱ・農林省主催で開催。占領軍の放出食糧の普及をはかり、なじみのない素材の調理法を説明した。

昭和22年8月

1（金）●空気座、田村泰次郎作「肉体の門」上演開始。

2（土）●中学校用副読本『あたらしい憲法のはなし』、高校用『民主主義の手引』を発行。

3（日）●鎌倉カーニバルが復活し三二〇万人の人出。

4（月）●最高裁判所発足（初代長官・三淵忠彦）。

5（火）●住宅獲得同盟結成され、東京で国民大会開催。

6（水）●広島市で初の平和式典挙行。

7（木）●「コン・ティキ号」、ペルー－ポリネシア間八〇〇〇キロの太平洋漂流実験に成功。

8（金）●都内に狂犬増加、一四匹発見と新聞に。

9（土）●古橋広之進、四〇〇メートル自由形で世界新樹立。

10（日）●大量放出で米の闇値下がる。一升二〇〇～二五〇円が一三〇～一五〇円に。

11（月）●都内中等学校授業料を月五〇円に倍増と決定。

12（火）●米国務省、パン・アメリカン、ノースウエスタン両航空会社に対日航空路の運航を許可。●ジョン・フォード監督「荒野の決闘」封切。

13（水）●羽田飛行場で米機が墜落、日米七人が死傷。

14（木）●パキスタン、英から独立（15日インド独立）。

15（金）●ＧＨＱと政府の強力な監督下、民間貿易再開。

16（土）●米貿易代表団滞在のホテルに、売りこみの日本人業者四〇〇人が殺到。

17（日）●北海道空知地方の水害で水田冠水五九九八町歩、浸水三三一九戸と道庁発表。

18（月）●全国チョコレート工業協同組合、子ども向け配給用に二〇〇〇万個の提供を申し出る。

19（火）●最後の全国中等学校野球大会閉幕。九州勢で初めて福岡県の小倉中学が優勝。

20（水）●全逓、給料繰り上げ支給を要求し、集団欠勤戦術を開始（山猫スト）。

21（木）●米領事館にＧＨＱ将兵と日本人女性との結婚八二二組が届け出る、と新聞に。

22（金）●物価庁、鮮魚の公定価格を九割値上げ。闇にまわって市場に出ない魚の入荷をふやすため。

23（土）●日本製タバコの注文が海外から殺到と新聞に。

24（日）●大蔵省が税金は新円で納付の方針と新聞に。

25（月）●黒字家庭は一割、「朝日新聞」の世論調査発表。

26（火）●米第八軍、東京湾内での遊泳禁止を解除。

27（水）●二科会、日展の官僚化を理由に不参加を発表。

28（木）●都営住宅抽選。募集三五一戸に約六万人殺到。

29（金）●横浜で「貿易再開記念」女子野球大会開催。

30（土）●混雑緩和に占領軍専用車への一般客乗車許可。

31（日）●国連原子力委、広島・長崎の放射能による遺伝的影響を長期にわたり調査を行うと発表。

毎日新聞社

▲**ワシントン・ハイツ竣工(9月)**旧陸軍の代々木練兵場跡地に建設された占領軍将校用の家族宿舎。住宅827戸のほかに劇場、学校、教会など、焼け野原となった東京に、別世界が出現した。

◀**水田になった東京・上野の不忍池(9月23日)**周囲はすでに戦時中、農園化されていたが、深刻な食糧不足のこの年、池も水田となって稲が植えられ、冬は麦が作られた。池が復活するのは、昭和25年になってからである。

共同通信社

共同通信社

▲**サンフランシスコ―東京間直航便(9月28日)**パン・アメリカン航空が運航、第1便がこの日羽田に着陸した。6月に開設された同社の世界一周線が東京経由になったもの。

毎日新聞社

▶**戦後初のボクシングチャンピオン(9月1日)**3ヵ月にわたって闘われた第1回日本ボクシング選手権大会で6人の各級チャンピオンが誕生した。写真左から、花田、堀口、ゴステロ、笹崎、河田、新井の各選手。

▼**キャスリーン台風、猛威(9月)**関東を中心に大水害。特に埼玉県と東京都の被害が大きく、10万人の安否が気づかわれる事態になった。死者・行方不明者は1529人。写真は東京の金町。

共同通信社

共同通信社

▲**労働省発足(9月1日)**労働者を保護するため、GHQの強い示唆により厚生省から独立した。初代労働大臣に米窪満亮(写真)、婦人少年局長に山川菊栄が就任した。

昭和22年9月

1(月)●労働省発足。
●GHQ指令で「ラジオ体操」が中止される。
●小・中学校で社会科の授業が始まる。
●第一回日本ボクシング選手権大会表彰式。
2(火)●北海道開拓者の花嫁候補一一人が集団見合い。
3(水)●東京・井の頭公園で米軍投下不発爆弾が爆発。
4(木)●日本―中国間の航空郵便が再開される。
5(金)●松竹歌劇団のレビュー「アラビアン・ローズ」、東京の新宿第一劇場で上演開始。
6(土)●静岡刑務所で、看守の失言などから服役囚四〇人が暴動(10日、九人が集団脱走)。
7(日)●日曜日に初の電力制限。一般家庭への送電を半減、工場へは全面停止。
8(月)●若松市の高松炭鉱でガス爆発。二一人死傷。
●国鉄、乗車券一人一枚の発売制限を解除。
9(火)●値上げで客減少の東京の銭湯が、一円値下げして大人三円とすることを決定。
10(水)●戦犯裁判終えた元第一八軍司令官・安達二十三、ラバウルで自殺。
11(木)●安井都知事、財政は十億円余の赤字と報告。
12(金)●物価庁、マッチ・化粧品・歯磨きを値上げ。
13(土)●音楽・体育など四科でレコード教育と新聞に。
14(日)●関東・東北でキャスリーン台風猛威(~16日)。
15(月)●検事から弁護士への転職が続々、と新聞に。
16(火)●GHQ、連合国への賠償として陸海軍工廠一七工場の機械一万九五六一点を指定。
17(水)●政府、隠退蔵物資の情報提供に報奨金と発表。
18(木)●持株会社整理委、地方財閥一六社を指定。
●GHQ、給食用粉ミルク四七一四トンを放出。
19(金)●戦災復興院、水害地復旧のため臨時建築制限規則を撤廃。木材の配給などを決定。
20(土)●水害で交通途絶の東京―千葉間に臨時航路。
21(日)●山内リエ、陸上五種競技で三一一一点の日本新。
22(月)●日ソ貿易協定調印。日本は木造船と艀を輸出。
●欧州共産党代表がコミンフォルム設置を決定。
23(火)●水害の葛飾区で五万人が飢餓状態、と新聞に。
24(水)●GHQ、小型鉄鋼輸送船一五隻の建造を許可。
25(木)●公職追放された元枢密院議長・清水澄が自殺。
26(金)●映画演劇人が入場税一五割引き上げ反対大会。
27(土)●原節子主演「安城家の舞踏会」封切。
28(日)●初のサンフランシスコ―東京直航便が羽田着。
29(月)●甲府刑務所の脱走囚が二日で三人殺傷し自首。
30(火)●クリスマス用豆電球、陶器、浅草海苔などを積み、民間貿易第一船が米へ向け横浜を出港。

菊部澄/JPS

▲**一般市民となった皇族(10月13日)**GHQの指令で、秩父宮・高松宮・三笠宮家をのぞく11宮家の皇籍離脱が決まった。写真は18日、お別れの晩餐会に出席した旧皇族。

共同通信社

▶**原爆死没者の改葬(10月)**広島市はこの年、被爆直後にあわただしく土葬された遺体の改葬事業に着手した。写真は同市似島での発掘作業。1400柱が「千人塚」に葬られた。

◀**米の供出強化(10月29日)**食糧事情は依然好転せず、政府は警察力も動員して低価格での供出を強制した。農家は自家米すら認められない状況となった。写真は新潟市で。

共同通信社

▶**映画人野球大会(10月)**東宝、松竹、大映、新東宝の映画4社の野球大会が開かれた。写真左から3人目は女優の高峰秀子、4人目が歌手の灰田勝彦。二人は昭和15年に野球映画で共演した。

◀**御園座再建(10月3日)**昭和20年3月の名古屋空襲で焼失。2世中村鴈治郎、中村扇雀、坂東蓑助らが出演し、柿落とし興行が行われた。料金は30円から80円と高額だったが大盛況だった。

御園座提供

毎日新聞社

昭和22年10月

1(水)●臨時国勢調査(総人口七八一〇万一四七三人)。
●衣料の切符制が復活。果物は自由販売に。
●「帝国大学」の名称が廃止される。
2(木)●五年ぶりの砂糖の一般配給が決まる。年内には子どものない家庭にも本物の砂糖。
3(金)●東京・新橋駅に紙幣式公衆電話設置。
4(土)●自由党の三代議士、天皇の地方巡幸を揶揄した雑誌「真相」を不敬罪で告発。
5(日)●NHK「日曜娯楽版」放送開始。
6(月)●文部省、教育漢字八八一字を発表。
7(火)●政府、財界・報道関係九九一人を公職追放。
8(水)●土浦市で全国の開拓民代表が危機突破大会。
9(木)●政府、自治体警察の独立・公安委員会設置などの新警察制度を指示するマ元帥書簡発表。
10(金)●電球が一世帯一個ずつ配給される。
11(土)●東京地裁判事・山口良忠、闇食糧を拒否し餓死。
12(日)●炭鉱労働組合全国協議会、日鉱と炭連に分裂。
13(月)●山階など一一宮家五一人の皇籍離脱が決定。
14(火)●米で「ベルX1」機が初めて音速を破る。
15(水)●高知県室戸町で、漂着機雷が処理中に爆発。三十数人が爆死・行方不明。
16(木)●GHQ、NHKの公共化と民放開設を示唆。
17(金)●GHQ、米航空会社に日米定期線の運営許可。
18(土)●中国行政院長、琉球の中国帰属を要求と言明。
19(日)●袋かけ用の紙が不足している青森のリンゴ農家が、古新聞送ればリンゴを返送と新聞に。
20(月)●山形県尾花沢町で、米の供出取締りに抗議し、三〇人が派出所を襲撃。
21(火)●国家公務員法公布。公務員を「公僕」と規定。
22(水)●米軍、主食供出の報奨に軍靴を贈ると発表。
●中国河北省高等法院、川島芳子に死刑判決。
23(木)●元労農党委員長・大山郁夫、亡命先のアメリカから一五年ぶりに帰国。
24(金)●全逓の集団欠勤戦術で郵便物の差し出し制限。
25(土)●警視庁、夜間非常警戒を実施し、一晩で強盗など一六一人を現行犯逮捕。
26(日)●改正刑法公布。姦通罪・不敬罪を廃止。
27(月)●果物など一三三品目の公定価格廃止。
28(火)●東宝交響楽団、第一回定演(指揮・近衛秀麿)。
29(水)●GHQ、戦争設備となる全機械の破壊を命令。
30(木)●ジュネーブで、「関税と貿易に関する一般協定(ガット)」調印。二三ヵ国が参加。
31(金)●米議会合同委、終戦以来の米の救済援助額は一九〇億ドル以上と発表。うち日本は七億ドル弱。

11~12月

毎日新聞社

◀「二十の扉」スタート(11月1日)アメリカのクイズ番組「トゥエンティ・クエスチョンズ」をまねたNHKのラジオ番組。問題は聴取者からの投書によって作られた。司会は藤倉修一。写真は録音風景。

▼乱闘国会(11月22日)炭鉱の国家管理をめざす「臨時石炭鉱業管理法」をめぐり紛糾した。20日を皮切りに、反対する自由党は連日のように実力行使。同法は片山内閣唯一の「社会主義的」法案だった。

毎日新聞社

▲円熟・大下2冠(11月)1球団ふえて8球団で争われたプロ野球公式戦は12日終了。大阪が12.5ゲーム差で優勝した。最優秀選手は大阪の若林忠志、「青バット」の東急・大下弘が首位打者と2年連続の本塁打王となった。

▼共同募金始まる(11月25日)アメリカで生まれた募金運動にならい、5億9297万円を集めた。写真は寄付ずみの家に貼られた印刷物とバッジ。2回目からは赤い羽根共同募金として定着した。

共同通信社

毎日新聞社

◀集団結婚式(11月)食うや食わずの生活で従来の結婚システムが十分に機能できなかったこの年、雑誌主催の集団見合いなどが流行した。写真は東京都の肝いりによる戦災者同士の集団結婚式。

昭和22年11月

1(土)●NHKでクイズ番組「二十の扉」放送開始。
2(日)●月一八〇〇円の「基準生活費」で暮らす経済安定本部の支出モデルが新聞に。酒は月一合。
3(月)●警視庁、初の火災警報発令。湿度四七%。
●連休で箱根に一万六〇〇〇人の人出、箱根登山鉄道が小田原乗り入れ後最高を記録。
4(火)●片山首相、平野農相に初の罷免権を発動。
5(水)●生活費の七五%で闇物資購入と警視庁調査。
6(木)●戦争のため婚期を逸した男女三八六人が多摩川畔で集団見合い大会。
7(金)●最高検察庁、敗戦時の「大造事件」(大阪造兵廠での横領事件)の調査を開始。
8(土)●逓信省、郵便宛名に「支那・満州」を使用禁止。
9(日)●東京・後楽園球場の「モク拾い」、一日三〇〇本拾って月収三〇〇〇円の内職、と新聞に。
10(月)●日本自治団体労組連合会(自治労連)結成。
11(火)●米第八軍司令官、「日本は米国の防壁」と演説。
12(水)●プロ野球日程終了。大阪(現・阪神)優勝、東急の大下弘が二冠王。
13(木)●横浜事件での拷問容疑で元特高係長らを起訴。
14(金)●倉敷天文台の本田実、新彗星(本田彗星)発見。
15(土)●長野県神坂村で「藤村記念堂」が落成。
16(日)●NHK、戦後初の「全国児童唱歌コンクール」を開催。
17(月)●外務省、海外残留邦人は八十二万人余、うち約七四万五〇〇〇人がソ連地区と発表。
18(火)●岡山県津山税務署で、給料では生活不可能と全員が辞表を提出。
19(水)●農業協同組合法公布。
20(木)●イギリスでエリザベス王女の結婚式挙行。
21(金)●都燃料対策連合協、一世帯当たり一俵の炭の年内確保または買い出し許可を要求。
22(土)●孤児写真移動展で一三人の親が名乗り出る。
23(日)●自由人権協会創立(理事長・海野晋吉)。
24(月)●水不足で電力事情最悪に。関東地方は米軍施設などのぞき全地区の送電を停止。
25(火)●第一回共同募金開始(23年から「赤い羽根」)。
26(水)●中ソ、対日理事会で教科書『くにのあゆみ』の中ソ関係記載の改訂を要望。
27(木)●日産、普通乗用車「ダットサン・スタンダード・セダン」発売。価格は一六万円。
28(金)●初の女性専用図書館「お茶の水図書館」開館。
29(土)●国連総会、パレスチナ三分割案を採択。
30(日)●前日の雨で電力事情好転、配電制限緩和。

共同通信社

毎日新聞社

▲配給の砂糖でカルメ焼き(12月23日)GHQが輸入砂糖の放出を許可、"本物の砂糖"がなんとか食べられるようになった。ただし、キューバ糖300グラムで配給米2合1勺を差し引かれた。

月刊沖縄社

◀ララ物資、順調に拡大(12月)食糧だけでなく、衣類・靴・医療品なども含まれ、混乱期の日本人の生活を救った。ララ東京委員会代表は29日、「これまでに220万トン以上を配付したが、来年はさらに多くの救済物資が届く見こみ」と語った。

◀進む、軍艦の解体(12月)GHQの指令により軍艦が次々と解体される中、最後の大物、軽巡洋艦「大淀」の解体が広島県の旧・呉海軍工廠で始まった。同艦は終戦直前の米軍機の攻撃により、瀬戸内海で大破し、航行不能になっていた。

▼闇タバコ「工場」(12月)タバコの配給は1日一人5本。愛煙家には耐えがたい状況で、宝籤までがタバコを景品につけた。いきおい、闇タバコ"産業"が大盛況。写真は栃木県のある農村で。

朝日新聞社

▲闇物資の取締りを強化(12月3日)警視庁は生産者・配給店の横流しや、闇ブローカーの摘発に懸命。この日、池袋西口商店街で30人を一斉検挙、菓子3000点、衣類2000点などを押収した。

朝日新聞社

▲戦後初の公衆電話は自動式(12月20日)東京でこの日、コイン投入式のもの160台が供用開始。しかし、硬貨不足の折から、交換手が紙幣の投入を確認して接続する「信用料金法」の公衆電話も使用された。

昭和22年12月

1(月)●特等一〇〇万円の宝籤発売。一枚五〇円。
2(火)●戦後初の英映画「第七のヴェール」封切。
3(水)●埼玉県の秩父夜祭に一〇万人。六人が圧死。
4(木)●東大戦没学生の手記『はるかなる山河に』刊行。
5(金)●「顔役」追放の効果もあり、学生の露店が盛況、稼ぎは平均五〇〇〇円、と新聞に。
6(土)●酒類の自由販売開始(清酒一級一升五五〇円)。
7(日)●政府、菊池寛ら一八五人の公職追放を発表。
8(月)●知恩院、浄土宗から離脱し本派浄土宗設立。
9(火)●山田五十鈴・土方与志主演「女優」封切。
10(水)●東京都、上野駅地下道の浮浪者千余人を収容。
11(木)●南北アメリカに在住の日系人一五〇万人が、日本救援に三〇万ドルの義援金と新聞に。
12(金)●児童福祉法公布(23年1月1日施行)。
13(土)●キューバ産砂糖を積んだ輸入第一船が横浜入港。武装警官八一人などが出動し、厳重警戒。
14(日)●高知県尾川村の吊り橋渡り初めで、ワイヤーが切れ村民転落。一人死亡、十数人重軽傷。
15(月)●太宰治『斜陽』刊行。
16(火)●カーテンなど室内装飾用織物の製造禁止。
17(水)●警察法公布。中央集権的警察を解体し、国家地方警察(国警)と自治体警察の二本立てに。
18(木)●大阪市で市民の「隠退蔵物資摘発隊」三〇〇人が住友金属の工場に押しかけ乱闘。
19(金)●タバコ、平均二・五倍の値上げ。配給用から自由販売用になった「光」は一二・五倍に。
20(土)●臨時石炭鉱業管理法公布。炭鉱を国家管理。
21(日)●都が正月用の砂糖を一人一〇匁配給と新聞に。
22(月)●改正民法公布。結婚の自由や男女平等を規定。
●一都一三市を対象に都会地転入抑制法公布。
23(火)●都食糧営団、餅つき講習会を開催。配給の糯米五〇〇グラムを洗い桶とビール瓶で餅に。
24(水)●閣議、競馬の国営化を決定。
25(木)●国鉄労組・全逓、政府の争議自粛要請を受諾。
26(金)●東京でメッセンジャー・椅子貸し業・税金値切り屋など新商売が繁盛、と新聞に。
27(土)●GHQ、新年の日の丸掲揚を許可。
28(日)●戦後初の外国人観光客乗せ、世界一周の米客船「プレジデント・モンロー号」が横浜入港。
29(月)●出生届の人名が当用漢字に限定される。
●広島県因ノ島で貨客船転覆。三八人死亡。
30(火)●池部良主演「春の饗宴」封切(笠置シズ子歌う主題歌「東京ブギウギ」が大ヒット)。
31(水)●内務省が廃止される。

俄楽多市

流行語
教育とは名ばかりのスタート

「青空教室」。この年四月から新しい教育制度のもと、戦後教育がスタートした。ただし焼け落ちた校舎が多いうえ、新制中学は突如作られた制度だから、校舎不足は目をおおいたくなるほど。このため屋外授業や二部授業が普通になり、「青空教室」という言葉が皮肉をこめて使われた。

「裏口営業」。ますます深刻化する食糧不足に対処するため、七月から飲食店での主食の販売が禁止された。違反したら経営者ばかりか客まで実刑という、厳しい内容である。ただし料理店や飲食店では、客が来たら入り口を閉めるという「裏口営業」が堂々とまかり通った。法そのものに抜け穴が多かったこと、闇米さえ入手すればもうけは大きかったし、客の方でも法を犯しても食べたかったからである。

「真相」。昭和二〇年一二月、NHKラジオで「真相はかうだ」という番組がスタート。翌年三月には「真相」という暴露雑誌が創刊されて人気を集めるなど、昭和二一年には「真相」ブームがやって来た。そしてこの年になると、サラリーマンや主婦の噂話でも、この言葉が常套語になるくらい広がった。

◀昭和22年歳末、クリスマス用のディスプレイがほどこされた東京・銀座の松屋PX。　松屋提供

流行
食糧不足の珍現象 断食道場のにぎわい

東京都と山梨県の境に位置する小仏峠の麓、甲州街道をちょっと入ったところに宝珠院という禅寺がある。断食道場なのだが、近頃は二十歳の娘さんなどの入門がしきり。以前は胃腸を病む人がポツポツと来ていたが、この頃は「食糧不足に動じない腹を作ろう」という人がほとんど。まず水だけで三週間頑張り、頭がボーッとしてくれば近くの滝に打たれて活を入れる。断食満願の日、湯呑み一杯のくず湯が霊験あらたかで、それからは飲むもの食べるものすべてがありがたく感じられ、空腹などいっさい気にならないという。これもまた遅配・欠配の社会が生んだ世相のひとつである。

（「朝日新聞」八月九日）

文化
九州・中国地方で無声映画のリバイバル

（福岡発）無声映画といえば、大正から昭和初期にかけて日本中を沸かせたものだが、昭和二二年頃から九州・中国方面で無声映画の巡業隊が大変な人気を集めた。映写技師や弁士、楽士ら、かつての経験者が隊を組み、各地の劇場をまわったもので、関西時代劇界のトップ弁士で、レコードで初めて映画の説明をした佐東宏郎や、九州弁士界の総帥と言われた桂大正など、映画史のそうそうたるメンバーぞろい。映画も伊藤大輔監督の「忠治旅日記・三部作」、名匠・山中貞雄監督の「抱寝の長脇差」、稲垣浩監督のデビュー作「天下太平記」など名作ばかりで、戦前、西日本や台湾などに隠匿されていたものと言われた。

（「西日本新聞」平成七年五月一三日）

▲4月に、酒井七馬原作・構成、手塚治虫作・画の「新宝島」が刊行され、40万部を超える大ヒットとなった。　©手塚プロダクション

CM100年

ポスター「引揚者ニ衣類ヲ。」（戦災援護会）

戰災援護會
THE WAR CALAMITY RELIEF SOCIETY
着替ヘモナイ
引揚者ニ
衣類ヲ
殊ニ
婦人子供ガ
大変困ツテ
ヰマス

▶引揚げ者のために衣類提供を呼びかける戦災援護会のポスター。

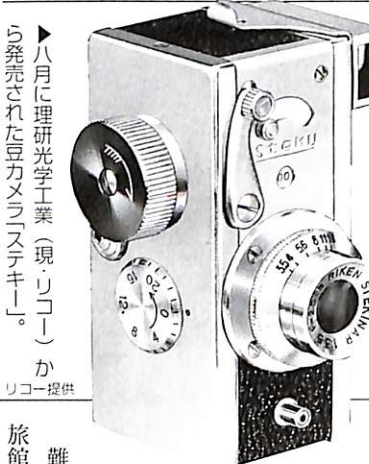
三面記事
“お札の幔幕”で結婚式

（高知発）高知市の山村秀人氏方では、三男の正彦さん（二四）に市内から美江さん（二四）という花嫁を迎えたが、花嫁のお里が金のうなる農家とあって嫁入り道具は豪華をきわめ、内輪だけに見せるのはもったいないと、客間の八畳間で「持参品展覧会」を開いた。展示された調度品は純白緞子のうちかけや、金襴の丸帯などの花嫁衣裳、それに新調の衣類がぎっしり詰まったたんす、洋服だんす、鏡台、ミシンなど、ざっと百数十万円。おまけに客間の鴨居三方に、四一〇枚の百円札を張った“幔幕”を飾ったから、さすがに派手好みの土佐っ子も度肝を抜かれて息を呑むばかり。サラリーマンが“一八〇〇円ベース”で生活をゆさぶられる中、農村のインフレ狂騒曲を見せつけられた光景だった。

（「朝日新聞」一一月一七日）

◀3月1日、漫画雑誌「クマンバチ」が赤い星社から創刊された。写真は創刊号。

風俗
焼け跡の救世主? ♨マーク誕生

昭和二二年夏、大阪・難波に住んでいた小林和市は、一面の焼け野原を見ながら、ふと「風呂を作ったらどうだろう」と思った。彼自身焼け出されたが、幸い田舎の親戚などの協力でバラックを建てることができた。しかし焼け跡の人々は疲れきった表情で、生きているのがやっとという感じである。せめて夫婦でゆっくり風呂に入れば、いくらかでも精気を取り戻せるのではないか。

小林は走りまわって材木を調達し、たりないところは焼け跡の丸太を集めて、三部屋ほどの小さな旅館を作った。店の名前は、当時最も有名な熱海温泉から「熱海」とし、旅館の前には「熱海」という字と♨マークを入れた小さな看板を立てた。

ところがこれが大当たり、開店当日には早くも行列ができ、二日目には行列が店から五〇〇メートルくらい離れた難波駅に達し、折り返してまた旅館の前まで続くという騒ぎになった。しかもこの行列が二ヵ月近く続いたのである。その結果、その年のうちに♨マークをつけた旅館が大阪に数軒登場し、翌年には全国に爆発的にふえた。こうして「♨マーク」、別名「逆さクラゲ」がラブホテルの代名詞となっていった。

（下川耿史『ラブホテルの戦後史』）

▶八月に理研光学工業（現・リコー）から発売された豆カメラ「ステキー」。　リコー提供

データ
露店の売り上げは一日四〇〇円

東京露店商同業組合の組合員、五万九六五五人。その構成は、もとからのテキ屋一九・五パーセント、失業者、復員軍人、軍人の遺族などの素人七九・八パーセント。

都内の露店数、約三万五〇〇〇店。一店当たりの売り上げは一日平均四〇〇円。組の収入になるショバ代は店の規模などにより差があるが、新宿の関東尾津組は一日三万円。

露店商が扱っている商品、①食品四〇・七パーセント、②日用雑貨三八・七パーセント、③家庭用金属品四・二パーセント、④工具類一・八パーセント、⑤皮革製品一・五パーセント（警視庁調べ）。

▲1月15日に登場した高額百円切手。まだ右横書き。

◀四月一五日、大宮駅で武装警官約二〇〇人が出動して、闇取締りが行われた。　共同通信社

この年の初もの
定員七〇人の大型バス 都がトラックを改造

●**携帯式嘘発見器**　激増する犯罪に手を焼いた内務省が、戸川行男早大教授（心理学）に依頼して製作した。

●**ロードショー**　東京・有楽町のスバル座で、「アメリカ交響楽」を初のロードショー公開。

●**汲み出し屋**　九月に東京が大水害に見舞われた時、家の中の水を汲み出す汲み出し屋が登場。一升五〇円。

はやり歌

星の流れに

作詞　清水みのる
作曲　利根一郎

星の流れに　身を占って
何処をねぐらの　今日の宿
荒む心で　いるのじゃないが
泣けて涙も　涸れ果てた
　こんな女に　誰がした

煙草ふかして　口笛ふいて
的もない夜の　さすらいに
人は見返る　わが身は細る
町の灯影の　侘しさよ
　こんな女に　誰がした

飢えて今頃　妹はどこに
一目逢いたい　お母さん
唇紅哀しや　唇かめば
闇の夜風も　泣いて吹く
　こんな女に　誰がした

▲菊池章子が歌った。翌年、「肉体の門」の舞台で歌われたのをきっかけにヒットした。　遠藤憲昭提供

山小舎の灯

作詞
作曲　米山正夫

黄昏の灯は
ほのかにともりて
なつかしき山小舎は
麓の小径よ
想い出の窓により　君を偲べば
風は過ぎし日の
歌をば囁くよ

暮れゆくは白馬か
穂高はあかねよ
樺の木のほの白き
影も薄れ行く
寂しさに君呼べど　わが声空しく
遥か谷間より
こだまはかえり来る

山小舎の灯は
今宵もともりて
一人聞くせせらぎも
静かにふけ行く
憧れは若き日の　夢をのせて
夕べ星のごと
み空に群れ飛ぶよ

▲「山小舎の灯」は、近江俊郎の甘い歌声でベストセラーになった。
JASRAC（出）許諾第9704563-701号

「入場料20円」に長蛇の列！ 新宿・帝都座〝額縁ショー〟数十秒の衝撃

▲新宿・帝都座での〝額縁ショー〟。額縁の中に、裸の踊り子が名画仕立てでじっとしているという趣向だった。写真はルーベンスの「アンドロメダ」に見立てたもの。 吉田潤

昭和二二年一月一五日、東京・新宿の帝都座で〝額縁ショー〟の第一回公演「ヴィーナスの誕生」が開演した。終戦直後の廃墟に登場したわずか数十秒のヌードに、虚脱状態から抜け出せなかった人々が押し寄せて連日の大盛況。このショーによって到来するストリップ全盛期は、昭和のテレビ演芸をいろどる数多くの芸人を生み出すことになる。

焼け跡の新宿に出現 〝額縁ショー〟の衝撃

ほんの一瞬のことだった。幕が開くと、ブルーのライトが舞台一面を照らし、中央にある木枠の中には、ルーベンスの名画「アンドロメダ」に見立てたポーズをとる一人の踊り子が立っている。くびれた腰を透かし織りの布でおおい、惜しげもなくさらされた豊満な乳房には、ピンクのスポットライトがあてられていた。その間数十秒、彼女は身じろぎもしない――。

「客席は〝初めて公然化された裸〟に息をのみ、静まり返っていました。ライトが消え、黒カーテンが閉じると、今度は、その沈黙がホォーという深いため息に変わったのです。〝今、目の前に現れた裸体はホンモノか〟――復員服やもんぺ姿の人々が固唾をのんで舞台を見つめていた様子が、今でも目に浮かびますよ」

演劇評論家の橋本与志夫氏は、〝額縁ショー〟が登場した当時をこう振り返る。

昭和二二年の一月一五日、東京・新宿の帝都座五階劇場（現在の丸井ファッション館）で始まった〝額縁ショー〟は、喜劇や歌、踊りと一体となってストーリーに挿入される〝立体名画〟だった。第二回公演の「ル・パンテオン」でダンスホールの踊り子だった甲斐美春（二〇）が初めて胸をあらわにすると、人気はピークに達し、入場料二〇円を握りしめた観客が、収容人員四二〇ほどのこの小さな劇場に「連日殺到し、五階入り口から階段を経て、延々下の帝都座の裏まで行列が続く」（「ナンバーワン」昭和二二年二月号）盛況ぶりを見せる。

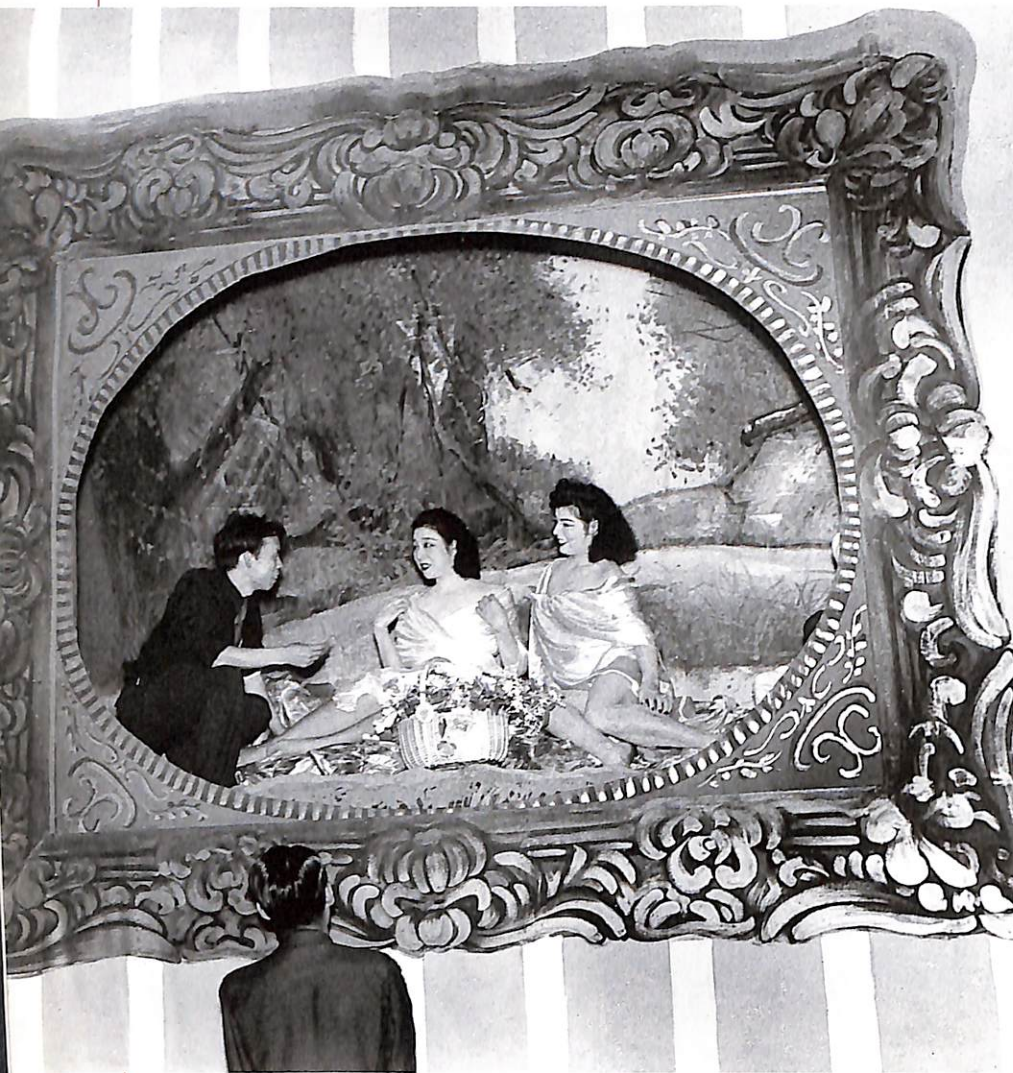
このショーを仕掛けたのは、七世松本幸四郎の甥で、東宝の重役にして演出家の秦豊吉（五五）。日劇ダンシングチームを作り、〝ショービジネスの父〟と言われた人物だ。秦には、第一次世界大戦後にヨーロッパのレビューを見てまわった経験から、舞台に裸を出したら当たるという強い確信がもともとあった。そんな彼が終戦直後、満州（中国東北部）から引き揚げてきたコメディアン、戦時中に休業していたダンサーを使って「日本人にアピールする斬新な企画を……」と考えていた時に思いついたのが〝額縁ショー〟だったのである。

「あの頃は、誰もが極限の戦争を経験して、終戦後も生きることに精一杯。売春婦（パンパン）はいたけど、それだって占領軍が独占してた。寂しさ、悲しさ、やるせなさが渦巻いていた焼け跡に突如、〝ささやかなお色気〟が登場したんだよ。衝撃を受けた男連中が、タガがはずれたように、裸に飛びつくのは当然のことだった」と話すのは、当時の帝都座で道具係をつとめた佐山淳氏（現・浅草フランス座支配人）だ。

ヌードが客を集めるとなると、すぐに日劇小劇場（有楽町）や常盤座（浅草）などが続々と普通ショーから裸ショーに転向し、六月にはヌード専門のロック座が浅草にオープンする。戦後の野放図な空気にのって、軽演劇やレビューショーなどの大衆芸能を席捲するストリップ全盛の足音は、すぐそこまで近づいていた。

〝ささやかなお色気〟からストリップティーズへ

〝裸旋風〟は、昭和二二年二月に日劇小劇場に登場した「院長さんは恋がお好き」の鈴木好子で幕を開けた。踊りながら衣装を一枚ずつ脱いで、乳房と股間だけをおおった姿になるその踊りは、ストリップティーズ（じらしながら脱いでいく芸）の〝はしり〟だった。

翌二三年一月には、後に日劇ミュージ

▲モネの名画「草上の食事」に見立てた新宿・帝都座の舞台。 林忠彦

▲男たちで超満員の浅草・常盤座のストリップショー。 吉田潤

外から見たNIPPON

台湾での"日本語全廃"政策に作家・呉濁流はなぜ反対したか

——佐伯　修

「本省人が日文（日本語）と別れを告げるよりさらに辛いらしい。その証拠には、去る（一九四六年）三月、日本人送還の際、たとえやさしくてしとやかな大和撫子と相思相愛の仲であっても、いざの場合、誰もめめしく苦情を言わなかった。（中略）ところが、日文廃止という政府の方針が決定され、十月二十五日に実行すると発表するや、俄然、若き男女に大きなショックを与えた。大げさに言えば断腸の思いである。全省を挙げて非難囂々、それに反対している。ところが、当局の目から見ればどうも男らしくない。当然、別れなければならない運命にある日文に対して、めめしく未練がましいことばかり言っているのは実に怪しからん奴だ、とどなりたくなるであろう。しかし大義名分のために、日本人の娘との身を切るような思いをも棄てられる本省青年が、日文に限ってかれこれ言っているのは決して勇気がないのではない。そこには深い理由があるのである」（「日文廃止に対する管見と日本文化の役割」）

日本の敗戦により、日清戦争以後半世紀にわたる日本の植民地支配を脱した台湾は、中華民国の一省となった。ほとんどの日本人たちは本国へ送還され、公用語も日本語から中国語（北京語）に改められた。

だが、日本統治下に生まれ育ち、日本語で書いた作家・呉濁流（一九〇〇～七六）の右の一文にもあるとおり、当局による日本語全廃、中国語強制政策に対して、長年日本語を用い、日本語で考えてきた台湾人の間から強い反撥の動きが起こった。

一九四六年に書かれ、翌四七年、エッセイ集『夜明け前の台湾』に収録されたこの文の中で、呉は、すでに「武装を解除」された日本語を「悪」と決めつける必要はなく、現に多くの中国人がそれを学び、翻訳を通じて「世界の文化」を摂取できる日本語を排除することは、排外主義的な愚行にすぎないと、日本語全廃に反対している。

この言は、呉が、幼少時代、老人たちから台湾人の抗日運動の話を聞いて育ち、日本時代へのノスタルジーに安易に身をまかせる人物でなかっただけに、むしろ説得力がある。そして、台湾の一部では、今なお日本語が、日本人と切り離されて使われている。だが、その間には、一九四七年の「二・二八事件」のように、台湾人と中国本土人（外省人）の対立が、日本語と中国語の対立に置き換えられるような悲劇も、また存在したのだった。

三浦小春　社会思想社提供

▶日本語による『アジアの孤児』などの作品がある。

ックホールに女王として君臨するメリー松原がロック座の「南国の処女」でデビュー。乳首に餅米で作ったスパンコールをつけた彼女は、妖精が水浴びするこのショーで、作家・永井荷風ごひいきのスターに押し上げられていく。続く三月には、酔った勢いでバラ一輪だけを股間に一曲踊りぬいたエピソードの持ち主、ヘレン滝が常盤座の「桃源乱舞」に初主演。見事な肢体とダンステクニックで、"ストリップの女王第一号"の名をほしいままにした。

このほかにも朱里みさを、伊吹マリ、オッパイ小僧こと川口初子などが続々と登場。二四年には、版画家の棟方志功が「神のような肉体」と絶賛した伝説のストリッパー、ジプシー・ローズが、腰を激しく回転するグラインドを持ち芸に現れると、ブームは全国に広がった。「あそこ祭り」「マンゴとバナナ」「女のパクパク」といった怪しげなタイトルのショーが氾濫したのは、ちょうどその翌年である。昭和二八年頃には都内に一五〇人以上のストリッパーがいたが、大学卒の国家公務員の初任給二九九〇円の時代に、トップクラスのダンサーになると、月収が一万円をゆうに超えたという。とにかく裸なしでは、ショーも演劇もおぼつかない時代になっていたのである。

ところが、二九年以降になると、ブームに翳りが見え始める。劇場の増加で競争が激化し、行水ストリップや忠臣蔵、裸ボクシングとあの手この手を出し尽くしたあげく、三三年に売春防止法が施行されて赤線が廃止されると、"全ストショー"が関西から東京へ押し寄せた。その結果、「脱いで見せるだけの興行が芸のある踊り子を駆逐し、テレビの普及もあって、ストリップ人気は凋落していく」（橋本氏）。

一方で、庶民の新しい娯楽になったテレビのブラウン管に登場したのは、ヌードめあての酔っ払い客相手に幕間コントをやり、時には舞台でストリッパーの相手役をつとめながら芸を磨いた——由利徹、東八郎、渥美清、三波伸介、萩本欽一、ビートたけしなど——ストリップ劇場の芸人だった。

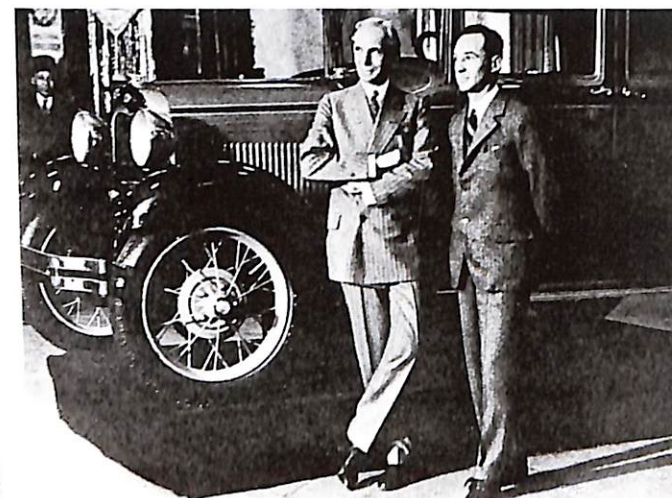
▲常盤座やロック座などが立ち並ぶ当時の浅草、六区興行界のにぎわい。　吉田潤

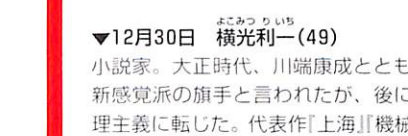
往きて還らぬ

▲11月19日　高勢実乗(56)
戦前に活躍した喜劇俳優。奇抜な衣装と「アノネ、オッサン、ワシャカーナワンヨ」というセリフで一世を風靡。

▲9月25日　清水澄(78)
大正～昭和期の高級官僚。帝国美術院院長、枢密院議長など歴任。天皇制を擁護し公職追放を受けた直後、投身自殺。

▲1月25日　アル・カポネ(48)
アメリカのギャングのボス。禁酒法時代に酒の密売や賭博で巨利を得、"暗黒街の帝王"と呼ばれた。

▲1月10日　織田作之助(33)
小説家。無頼派の代表的な一人で、昭和15年『夫婦善哉』を発表。『わが町』『世相』で流行作家となった。

◀4月7日　ヘンリー・フォード(83)
一九〇三年フォード・モーター社設立。流れ作業による大量生産で、自動車産業に革命を起こした。写真左。

▲12月13日　S・ボールドウィン(80)
1923年英国の首相に就任、その後3度首相となった。国王とシンプソン夫人との結婚に際し、王に退位を求めた。

▼12月30日　横光利一(49)
小説家。大正時代、川端康成とともに新感覚派の旗手と言われたが、後に心理主義に転じた。代表作『上海』『機械』。

▲9月30日　4代目柳家小さん(59)
落語家。滑稽話を淡々と語る芸風が人気だった。戦後落語協会会長に就任。代表芸「ろくろ首」「長屋の花見」など。

▲7月13日　野口米次郎(71)
詩人。18歳で渡米。明治29年詩集『Seen and Unseen』刊行、以後国際詩人として活躍した。イサム・ノグチは息子。

▲1月19日　石原純(66)
物理学者。相対性理論の研究により大正8年学士院恩賜賞を受賞。10年、歌人の原阿佐緒との"恋愛"が話題に。

◀7月30日　幸田露伴(80)
小説家。近代文学を代表する一人で、評論も手がけた。昭和一二年文化勲章受章。代表作『五重塔』『芭蕉七部集』。

▲1月23日　ピエール・ボナール(79)
"色彩の魔術師"と呼ばれたフランスの画家で、作品は浮世絵からも影響を受けた。代表作に「浴槽の裸婦」など。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第25号 7月29日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1948[昭和23年]

●特集
"戦後歌謡界の女王"美空ひばりデビュー／火災、液状化現象、豪雨で市内は壊滅、福井大地震、「複合災害」の恐怖！／"戦争の匂いが強く感じられる"帝銀事件の「謎」と「闇」／大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国が相次いで成立

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日…新制高等学校発足(4月1日)／優生保護法公布(7月13日)／渋谷駅前の「忠犬ハチ公」像が再建される(8月9日)／東宝争議に米軍戦車七両出動(8月19日)／昭電疑獄で芦田内閣総辞職(10月7日)／東京裁判で最終判決。東条英機ら七人絞首刑(11月12日)

●人物クローズアップ
沢田美喜、"混血児の母親"に

●決定的瞬間
ベーブ・ルースが最後に球場に立った日

●美の出会い
林忠彦の"文士シリーズ"開始

●女たちの肖像…女性初の文化勲章に上村松園／勝者・敗者…大関東富士が初優勝／証言・あの日この日…竹内好、森田草平／20世紀博物館…太皷館(東京)／「現場」を歩く…太宰治が入水心中した玉川上水／外から見たNIPPON…マーク・ゲインの『ニッポン日記』があかした日本占領の実態

●ベストセラー…太宰治『斜陽』、吉川英治『親鸞』／スターと名場面…三船敏郎と「酔いどれ天使」／モノ語り'48…「セロテープ」「折畳椅子」

ミニ事典

1947年のキーワード

カストリ雑誌

性や性風俗を扱い、統制外の粗悪な仙花紙に刷られた四〇ページ前後の雑誌。一合(号)から三合(号)くらいまでは大丈夫だが、その後はつぶれるという危ない"カストリ焼酎"が名前の由来という。この年をピークに大量に出現、「風俗研究」「りべらる」などその数は一〇〇誌を超え、一一月九日には初めて茜書房の「猟奇」が、猥褻物頒布罪で摘発された。

▶太虚堂書房発行のカストリ雑誌「りべらる」創刊号。二八年四月号で廃刊。

トルーマン・ドクトリン

米大統領トルーマンがこの年三月一二日、米上下両院合同会議で、ギリシア、トルコ両国への借款供与と軍事要員派遣の承認を求めた際に発した宣言。共産主義勢力の拡大を阻止するための対ソ封じこめ政策。米国はあえて第二次大戦以来の対ソ友好を放棄、「冷たい戦争」の道をとった。

六・三・三・四制

小学校六年、中学校三年、高校三年、大学四年とする学校制度。この年四月一日、前日公布された学校教育法により、まず小学校六年、中学校三年の義務教育が発足、翌二三年に高校、二四年に大学がそれぞれ発足した。この新学制で国民学校の廃止、男女共学、高等教育の門戸開放など、教育の民主主義的改革がいっきょに進んだ。

独禁法

正式には「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」。事業支配力の過度の集中を防止し、公正かつ自由な競争の促進を目的として、この年四月一四日公布、七月二〇日施行。解体した財閥の復活を阻止し、経済の民主化を進めるGHQ(連合国総司令部)の占領政策の一環だった。目的達成のため公正取引委員会が組織され、審査・審決など準司法的役割をはたした。

闇の女

戦後の混乱期、生活のために売春婦となっていた女性。「パンパン」「パン助」「夜の女」「街の女」など、みな同義語。この年、彼女たちの心情を切々と歌った「星の流れに」が大ヒット。四月二二日にはNHKの人気番組「街頭録音」が「ラクチョウ(有楽町)のお時」の声を流した。全国で約四万人と言われた「闇の女」に対し、警視庁とMPはしばしば「狩りこみ」を行ったが、いっこうに減らなかった。

緑風会

参議院を特定の政党によらない良識の場にしようという意向で結成された院内交渉団体。この年五月一七日、参議院無所属議員五八人が集まって初総会を行い、会長に松平恒雄が就任。一時は九六人もの会員を誇り、参議院第一党となったが、政党化が進むにしたがって衰微、昭和四〇年六月、解散した。

日教組

戦後すぐに発足した共産党系の全日本教員組合(全教)と社会党系の日本教育者組合(日教)が合体し、この年六月八日に結成された全国教職員統一組合。正式の名称は日本教職員組合。組合員約五〇万人と言われた。前年六月、全国教員大会が開かれたが分裂、その後、最低生活権獲得闘争が戦線不統一による弱体を露呈したため、四月の総選挙での社会党躍進を契機に統一の気運が盛り上がっていた。

▶六月八日、奈良県の橿原建国会館野外講堂で開かれた日教組の結成大会。

「鐘の鳴る丘」

NHKラジオが七月五日から開始した菊田一夫作の連続放送劇。毎週土・日曜、午後五時一五分から一五分間放送した。復員兵が故郷の長野県に戦災孤児のための楽園を作ろうとする話で、ドラマの人気とともに、主題歌「とんがり帽子」が子どもたちに愛唱された。後、月曜から金曜までの放送となり、昭和二五年一二月二九日まで七九〇回続いた。

NHKサービスセンター提供

▲「鐘の鳴る丘」の主題歌、「とんがり帽子」を歌う音羽ゆりかご会の少女たち。

世耕事件

終戦後、かつて政府・軍部や軍需会社が保有していた物資がひそかに取り引きされ、ブローカーなどの暗躍を生んだ。経済安定本部に設置された隠退蔵物資等処理委員会副委員長の世耕弘一は「総額で約二五〇〇億円」と述べ、この発言をきっかけにして、隠退蔵物資にまつわる詐欺事件が相次いだ。衆議院は七月二五日、調査委員会を設けて原因解明にあたったが、「世耕情報」の内容を確認することはできなかった。

キーナン発言

東京裁判で国際検事団首席検事のキーナンが天皇と日本の実業家に戦争責任はないと語った発言。一〇月一〇日付「ニッポン・タイムズ」紙が報じた。「銀行家や商工界の指導者は銃を突きつけられてやむなくやった」とも。この発言で、二年間続いていた天皇と実業家に関する戦犯論争が沈静化した。

臨時石炭鉱業管理法

すべての炭鉱を、国家が生産計画などを監査する一般炭鉱と国家が経営内容にまで踏みこむ指定炭鉱に分けることを決めた三年間の時限立法。この年一二月二〇日公布、翌二三年四月一日施行。社会党政権の片山哲内閣は当初、全炭鉱の国有化を計画していたが、野党・自民党の反対で実現できなかった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1947

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正
●写真協力
阿木翁助 石井幸之助 遠藤憲昭 亀井江以子 清水勲 南部澄但馬一憲 林忠彦 林義勝 平野美津子 三浦小春 吉田潤 朝日新聞社 NHKサービスセンター キーストン 共同通信社 月刊沖縄社 JPS 社会思想社 手塚プロダクション 日刊スポーツ PPS Popperfoto 毎日新聞社 ユニフォト・プレス WWP 松竹 スバル座 松屋 御園座 リコー 飯田市 角川文化振興財団 国立公文書館 東京都交通局 日本中央競馬会 文化女子大学図書館 明治大学考古学博物館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1947
●"フジヤマのトビウオ"発進! 8月5日号
第1巻第24号 通巻24号
編集人 近藤達士 発行所 株式 講談社 郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23701-8/5 T1123701080566
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社